

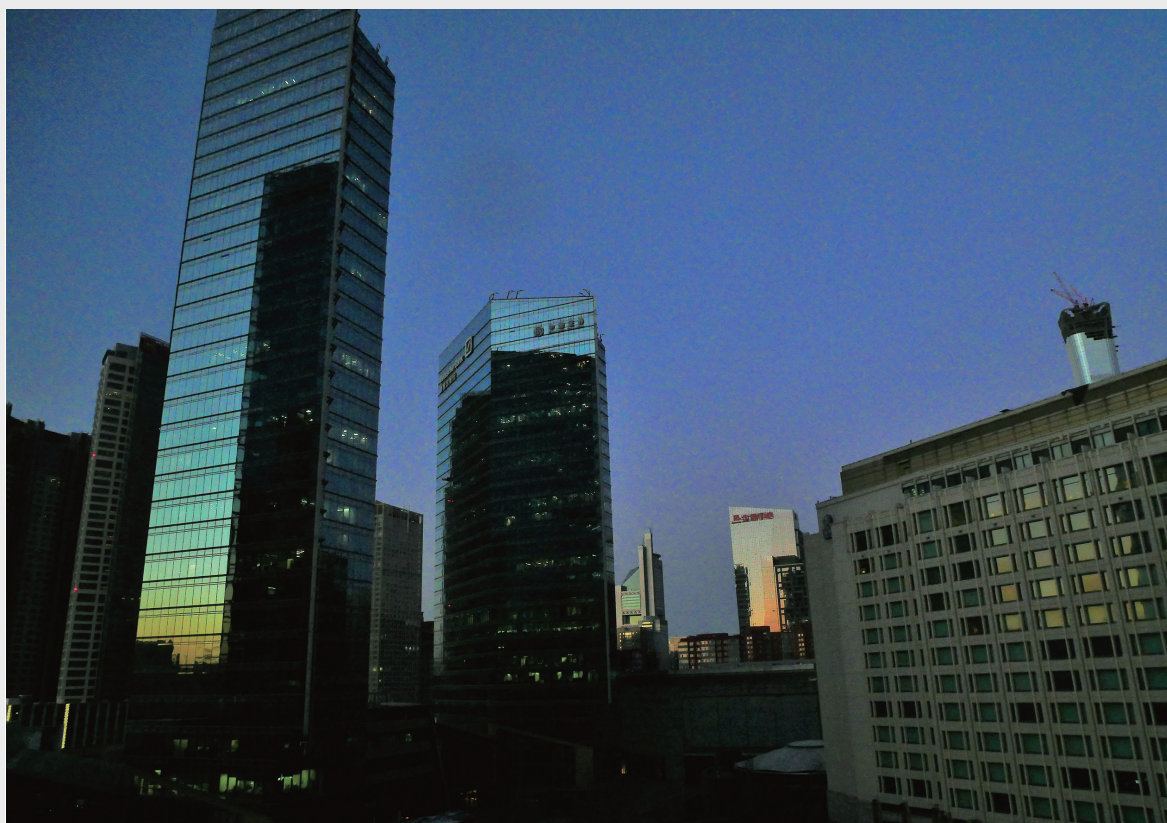
善隣

No.501 通巻768

2019年（平成31年）3月1日発行（毎月1日発行）

2019

3



一般社団法人 国際善隣協会



◀ 矢吹晋塾長



善隣中国塾

矢吹晋氏（横浜市立大学名誉教授・当協会学術顧問）を塾長に、現代中国をテーマとする勉強会を、毎月プレミアム・フライデー（16：00～18：00）に開いています。レポーターの報告の後、矢吹塾長のもとで質疑応答、意見交換などを自由に行うゼミナール風、全員参加型の“中国塾”です。

一昨年10月に始まったシリーズ1（テキスト：『習近平の夢—台頭する中国と米中露三角関係』矢吹晋著・花伝社）に続き、昨年9月開講のシリーズ2でも、『中国の夢—電腦社会主義の可能性』（同上）をテキストに毎回1章ずつ進めています。4月はシリーズ2のまとめで、矢吹塾長の講演会とします。シリーズ3は9月開講の予定。（世話人・日野正子）

善 隣 目 次 2019年 3 月号

公開講演会記録

プロトコール（国際儀礼）を知ってニュースを観る ……………小暮幹雄	2
武蔵国高麗郡の建郡と渡来人 —古代の日朝関係について ……………岩下壽之	11
中国から伝わった香りの文化 ……………長谷川景光	18

会員彼是

NY で出会った “最後の手紙” を歌う男たち ……………佐藤嘉信	25
-----------------------------------	----

中国ウォッチング ……………編・訳 上松玲子	28
------------------------	----

コラム 〈腰折れ文〉 十九、……………渡邊澄子	30
-------------------------	----

陶々俳壇 ……………馬場由紀子選／佐藤若杉	31
-----------------------	----

協会通信・会員だより・同好会だより ……………	32
-------------------------	----

2019年 3 月の行事予定 ……………	33
----------------------	----

みんなの写真館 ……………	32
---------------	----

善 隣 第501号 通巻768号

2019（平成31）年 3 月 1 日発行

発行所 〒105-0004 東京都港区新橋 1-5-5

一般社団法人 国際善隣協会

TEL 03（3573）3051

FAX 03（3573）1783

発行人 矢野一彌

印刷所 旬ゆにおんプレス

定価 一部400円 年額4,800円

振替 00120-0-145956

国際標準逐次刊行物 ISSN 0386-0345

©禁無断転載

公開講演会記録

プロトコール（国際儀礼）を 知ってニュースを観る

結び文化研究所長 小暮幹雄



前回は、「結びの歴史と文化」についてお話をいたしました。本日は、「プロトコール（国際儀礼）を知ってニュースを観る」と言う演題でお話をさせていただきます。

始めに、プロトコールのお話をする前に、私が国旗について興味を持ったきっかけを実際に経験したことでお話いたします。私は少年時代からボーイスカウトの団員として活動をしておりました。ボーイスカウトの集会では、始まりと終わりのセレモニーで、国旗に対する敬礼をしておりました。そして、国旗ポールへの国旗の掲揚・降納の仕方も教わりました。1964年10月10日から2週間にわたって第18回オリンピック東京大会が、代々

木の国立競技場ほかで開催されました。参加92か国の国旗を明治神宮の絵画館前に掲揚するのを、ボーイスカウト200名ほどが担当しました。当時私は大学1年生であり、全体の指揮をする立場にありました。参加各国のポールにはボーイスカウト2名が正手、副手となって、開会期間中、毎朝掲揚し、夕方に降納をいたしました。9月上旬には、事前訓練として、行進の仕方や、整列待機、国旗の持ち方、たたみ方、そして、参加国の国旗が同時に同じ速さで掲揚・降納できるように何回も練習をしました。

また、9月中旬には、国立競技場にて開会式での入場行進の予行演習があり、ボーイスカウトに見物の機会を与えられ、私も見物しました。参加各国のプラカー

ドと国旗は、防衛大学の学生が奉持しました。参加各国の選手団はまだ来日していないので、選手団の人数分の距離を空けて次の参加国のプラカードと旗手が行進する形でした。セイロン（現スリランカ）のプラカードがメインスタンド前に差し掛かったときに、すぐ後ろを行進している旗手の国旗が逆さまにポールに取り付けられているのを私は発見し、そのことを直ちに本部へ注進しました。本部の方はすぐに国旗の本で調べて、逆さまであることを認めました。これを機に、私の国旗への関心が一段と高まりました。さて、本題のプロトコールとは何かと申しますと、「国家間の儀礼上のルールであり、外交を推進するための潤滑油。また、国際的・公式な場で主催者側が示

すルールをさすこともある」と外務省は規定しております。

また、「プロトコールは国際的交流の場でお互いに共通理解を持ち、国際間の友好を高めるためのものであり、公的な行事を企画・立案・実施する場所で主催者側が必要とするルール」でもあります。プロトコールには5つの原則があります。

まず、序列（席次）の重要性、次に、答礼・相互主義、3番目は、右上位（向かって左側）の原則、4番目は、異文化の尊重、そして、レディー・ファーストの原則です。

①序列（席次）の重要性ですが、誰がどの席に着くか、あるいは立つかが大変重要です。2か国以上の国際会議での座席や接遇では、地位や役職に応じた席が保証されます。

②答礼・相互主義については、2か国間で主催国が歓迎晩餐会をしたならば、来賓国は別途、答礼の晩餐会を設けることになっております。

③右上位（向かって左側）の原則では、人の立ち位置や国旗の配置では、右側が常に上位（向かって左側）です。

④異文化の尊重とは、国際間ではそれぞれの国の歴史や文化・慣習が違いますので、そのことを尊重して儀礼を行います。

⑤レディー・ファーストは、行動において、常に女性を優先することを大切にします。

敬称について

次に、敬称についてお話いたします。国際儀礼上の敬称には、王族（皇族）の敬称と高位高官の敬称とがあります。

日本の皇族の敬称では、日本の天皇・皇后に対しては陛下を用います。皇太子は殿下、皇太子妃は、妃殿下を用い、以下、男子皇族は殿下、女子皇族は妃殿下です。さらに王、王妃も用います。

外国の王族の敬称としては、元首とその配偶者、および元首直系の王族とその配偶者は、His (Her) Royal Highnessを用います。His (Her) Royal Highness 以外の王族一般は、His (Her) Highnessを用います。

外国の王族に対する呼びかけは、最初に Your Royal Highness で、その後は Sir (Ma'am) となります。

敬称の対象、呼びかけ、宛名、起句など

(1) His Majesty (Her Majesty)

王族元首に対しての呼びかけは、最初に Your Majesty で、その後は Sir (Ma'am) となります。

(2) The Right Honourable と The Honourable

The Right Honourable は英国貴族、枢密顧問官、首相、各省大臣、総督、英連邦首相、大市長などに用います。米国では自国大使、公使、各省長官、州知事、市長、上下連邦および州の議長、議員、最高裁判所長官、および判事に対して用います。

Honourable は、通常、肩書または肩書+姓で呼びかけます。例として、大統領は Mr. President と、首相には Mr. Prime Minister と呼びかけます。ニュースでは新聞記者がこのように呼びかける場面を見ることがあります。

(3) Sir と Lady については、英国の1代限りの貴族 (Knight)、女性 (Dame) に対して用います。男性に対する呼びかけは、Sir+ファーストネーム (Sir Mikio)。女性は Lady+姓 (Lady Kogure) で呼びかけます。

(4) Mrs. と Ms. については、Mrs. は既婚夫人に対する一般的な敬称であります。Ms. は未婚、既婚に関わらず使えます。呼びかけは、Mrs./Miss/Ms.+姓で呼びかけます。

(5) Dr. の呼びかけについて。医師に対する一般的な呼びかけは、Dr.+姓

(Dr. Kogure) です。

(6) 封筒の宛名書きについては、フルネーム＋取得学位略文字で表します。

医師一般に対しては、Kogure, M.D. (Doctor of Medicine)、獣医師は、Kogure, D.V.M. (Doctor of Veterinary Medicine) と書き、歯科医は、Kogure, D.D.S. (Doctor of Dental Surgery) のように書きます。

Professor について。学者（博士号取得者）に対する呼びかけは、Dr.＋姓、あるいは Professor＋姓を用います。

また、封筒の宛名書きは、学位の有無により異なります。Dr.＋フルネーム＋取得学位、あるいは、Prof.＋フルネーム（学位なし）を用います。

軍人に対する呼びかけは、国ごとに、また、陸軍・海軍・空軍、海兵隊によって異なり、基本的には肩書（General, Colonel, Lieutenant など）を用います。聖職者に対する呼びかけは、宗教、宗派によって異なります。

基本的には、英国教会は Archbishop, Bishop などの肩書を用い、カトリックは、Cardinal, Bishop, Father, Sister などと呼びます。プロテスタントでは、Bishop などを用います。また、ユダヤ教は、Rabbi などです。因みに、日本の

プロテスタントの聖職者は、牧師。カトリックの聖職者は、神父の敬称を用いています。

ローマ法王 (Pope) に宛てる手紙の宛名は、His Holiness The Pope と書きます。そして、口頭での呼びかけは、Your Holiness と呼びます。

枢機卿 (Cardinal) に宛てる手紙の宛名は、His Eminence です。呼びかけは、Your Eminence です。大司教 (Archbishop) に宛てる手紙の宛名は、His Excellency です。Your Excellency または Archbishop＋姓で呼びます。司教 (Bishop) に宛てる手紙の宛名は、The Most Reverend＋フルネームと表記し、呼びかけは、Your Excellency または Bishop＋姓で呼びます。

上記以外のカトリック高位聖職者には、The Right Reverend Monsignor＋フルネームを表記し、Monsignor (のみ) または＋姓で呼びます。

カトリックの神父 (Priest) に宛てる宛名は、The Reverend＋フルネームで表記し、Father (のみ) または＋姓で呼びかけます。

シスター (Sister) に宛てる宛名は、Sister＋フルネームで表記し、呼びかけは、Sister (のみ) または＋ファースト

ネームです。

握手について

握手については、外国人と握手を交わす場合には、お辞儀をせず背筋を伸ばした姿勢で、お互いに右手で相手の手の平を深く握り、相手の目を見つめて数回上下に軽く振ります。親しい間柄では、お互いの右手の親指を握るようにします。握ったまま腕を持ち上げる場合もあります。男性が女性と握手を交わす場合には、女性が先に手を出してから男性は女性の右手の親指以外の4本の指を優しく握ります。男性が先に手を出したり、深く強く握るのはタブーです。

握手は原則として、異性間では、婦人から男性へ、同性間では、目上の者から目下の者へ、先輩から後輩へ、既婚者から未婚者へ、年長

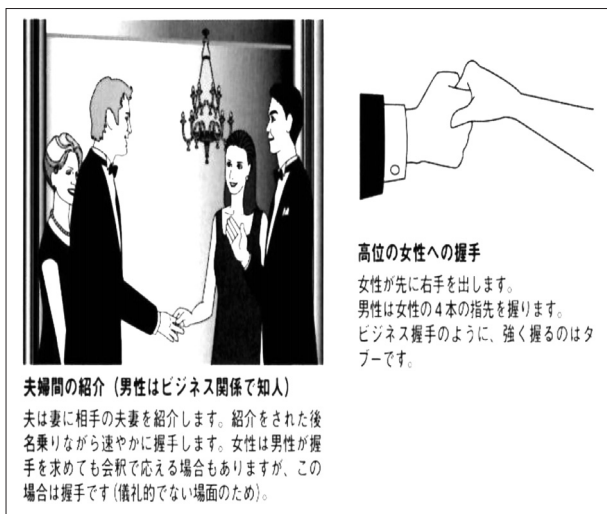


ビジネス握手＝指先を握るのではなく親指を深く差し込みます。



アビール用握手＝トップリーダー同士の力強い握手。聴衆に見えるように持ち上げています。

握手の姿勢は、背筋を伸ばし、お辞儀はしません。親善や友好の証の両手握手でも、実際には時間差攻撃をしています。相手の右手をキャッチ、即座に自分の左手を相手の右手の上にのせています。



者から年少者へ手を差し出します。

序列（席次）について

序列（席次）については、公式席次と儀礼席次があります。

公式席次は、一般的な基準であり、国によって異なる場合があります。

外交代表の席次も国や行事によって異なる場合があります。

王族元首の席次に関しては、即位した順と決められています。王族皇太子、その他の王族の順に席が決められます。王

族以外の元首（大統領）はやはり就任順となります。

元（ex）元首（元大統領）は過去の就任順です。首相も就任順であり、次が、元（ex）首相であり過去の就任順となります。

国会議長、最高裁長官、閣僚（通常は外務大臣が筆頭）の順が席次です。

外交代表の席次は国や行事によって異なる場合があります。

大使は、信任状奉呈順（1961年のウィーン条約で決められています）と席次が決められています。外交団長（各国大使の中の筆頭）は通常、着任最古参が務めています。カトリック国では、バチカン（法王庁）大使が筆頭です。

儀礼席次

民間の政・経・財界人、文化・学界、芸術家などの席次を決めるのは困難です。

儀礼席次の決め方の原則。

- ・ 年齢順で決めます。
- ・ 社会的地位で決めます。
- ・ 同じランクでは外国人に自国人より上席を与えます。
- ・ 同じランクでは初めて招待された客が、過去に何回か招待された客より上席とします。

・ 「元」肩書の人は、同じ肩書の現職より後の席となります。

・ 聖職者は宗教行事など聖職者に特別の重要性を持つ行事においては優先されます。

・ 貴族や爵位が高い方は、爵位を授与された年次順で席次が決まります。

・ 叙勲者。特別な勲章や名誉賞を受賞した人には特別な配慮をする必要があります。

・ ホストとの関係。客同士が同じランクの場合は、外国人が優先されます。

団体、多国籍機関のメンバーの順序

（1）国連

国連総会では、毎年席割を事務総長が籤引きで決めることになっています。

議長より見て最前列右から国名のアルファベット順に席が割り当てられます。

安全保障理事会では、馬蹄形テーブルに、議長を中心に左回りに国名のアルファベット順に席が決められます。そして、月ごとに1か国ずつ右隣に席を移動することになっています。

議長は右隣には事務総長が座ります。

（2）G7やG20

座席はその年の議長国により異なります。議長を中心に右・左交互に大統領就

任順、首相就任順に席が割り当てられます。

(3) EU

メンバー国の自国語による国名のアルファベット順で席が決められます。

(4) オリンピック

開会式入場行進では、古代オリンピック発祥の地のギリシャが常に先頭で入場します。次いで参加各国は、開催国の言語によるアルファベット順で入場し、最後は開催国が入場することが決められています。

日本の席次（一応の目安）

戦前は「皇室典範」で宮中席次が決められていました。現在では、公式席次は定められていませんが、一応の目安として、次のようになっています。

- (1) 皇族
- (2) 内閣総理大臣
- (3) 衆議院議長
- (4) 参議院議長
- (5) 最高裁判所長官
- (6) 元内閣総理大臣（年齢順）
- (7) 元衆議院議長（年齢順）
- (8) 元参議院議長（年齢順）
- (9) 元最高裁判所長官（年齢順）
- (10) 外国特命全権大使（着任順）

(11) 野党党首

(12) 与党副党首

(13) 国務大臣、衆議院副議長、参議院副議長、最高裁判所判事（長官代行）（年齢順）

(14) 最高裁判所判事（任命順）

(15) 経済・財界・文化・教育・マスコミ・国際協力分野の団体長（年齢順）

(16) 内閣官房副長官、副大臣、内閣法制局長官、国立国会図書館長、衆議院議員、参議院議員、衆議院事務総長、参議院事務総長、最高裁判所事務総長、宮内庁長官、侍従長、特命全権大使、その他の認証官（年齢順）

(17) 都道府県知事（連合組織の定める順）

(18) 都道府県議会議長（連合組織の定める順）

(19) 事務次官

上位席について

国際儀礼では、右上位（向かって左）が原則です。これはキリスト教社会の伝統に基づくものですが、日本では、古来、中国の伝統にのっとり、左が上位でした（例・左大臣、舞台の上手）。しかし、明治維新の西欧化にともない、右上位が定着しました。

(1) 自動車

自動車の上位席の基本は、乗り降りが容易な（後部座席）車寄せに近い席です。職業運転手がいる右ハンドルの車のときには、原則として、後部座席で、運転手の後ろの席が上位席です。

左ハンドルの車の場合には、後部座席で、運転席の最右側の席が上位席です。友人や同僚などが運転する車の場合には、運転席の隣の席（助手席）が上位席となります。

(2) エレベーター

乗るときは上位者が先に、降りるときには、案内人が先に降ります。ただし、エレベーターの降り口で出迎え者が待っている場合には上位者が先に降ります。

(3) 歩道を歩く

上位者を自分の右側にして歩きます。自分は車道側を歩き、上位者は建物に近い側を歩くようにします。男女が歩く場合には、女性を建物側にし、男性は車道側を歩きます。

(4) 室内の上位席

・日本座敷
日本座敷では、床の間に近い場所が上位席です。

・洋室の場合

① マントルピース（暖炉）があれば、そ

の前が上席です。
②庭などの眺めがよい席は上位者に与える場合が多いです。

③レストランなどで、壁を背にした長椅子席は上位者に譲ります。

④応接セットでは、長いソファの右側が上席です。

⑤宴席では、ホストの右が女性No.1、左が女性No.2、ホステスの右側が男性No.1、左側がNo.2、以下右No.3、左No.4……。⑥出入り口近くやキッチン近くは末席となります。

国旗について

日本の国旗は近年までデザインとしての詳細が統一・確定されていませんでしたが、国旗（日章旗）と国歌（君が代）は、1999年8月13日の法律第127条（略称「国旗国歌法」）で初めて標準としてその詳細が決められ、即日施行されました。

寸法は、縦が2に対して、横は3の割合です。日章は対角線の交点を中心として、円の直径は縦の5分の3です。地色は白、日章は紅と規定されています。

因みに、国際連合方式では、国旗の縦横のサイズは、縦2対横3となっています。複数の国の異なる縦横比の国旗の場合、

合、国連方式の2対3に併せてよいかどうかを先方に照会し、了承が得られればサイズを直して併掲します。

国旗の取り扱い

・国旗は、国家国民のシンボルなので、汚れたり破れたりしていけないものを使用します。

日本国旗のみを掲揚の場合には、野外では門外から観て左側に、壇上では向かって左側に掲揚します。

・掲揚の場合には旗竿（ポール）の旗の上辺が最上部に接するようにします。

・三脚使用や行進の場合には、床面や地面に触れないように配慮します。

・国旗は原則として、日の出（または始業）から日没（または終業）まで掲揚します。

・原則として、雨天、荒天では野外に掲揚はしません。

「国旗及び国歌に関する法律」で正式に日章旗が日本の国旗と制定された後も、日本の国旗について細かい取り扱いに関する立法上の規程があるわけではありません。しかしながら、日本では刑法第92条で外国の国旗・国章に関する「外国国章損壊罪」を規程しており、日本国内の外国大使館など公的な国旗・国章の場合

に限っては、損壊に関して刑罰が科せられることになっていますので、国際的な場においては、自国の国旗に対しても、相手国の国旗に対しても、同じように敬意を払わなくてはなりません。

日本国旗と外国国旗の併掲

（1）最新のサイズのものを使用します（図柄、図柄の位置を確認のこと）。

米国旗は星の部分が向かって左角になるように掲揚します。サウジアラビア国旗は、刃先が向かって左向きになるように掲揚します。

（2）自国国旗

外国国旗を掲げるときは、自国国旗も掲揚するのが原則です。

外国公館では自国国旗のみの掲揚が認められています。

（3）掲揚

2か国の国旗を同時に掲揚する場合には、同じ大きさ、同じ高さに掲揚します。1本のポールに複数の国旗の掲揚はしません。

（4）国旗位置

2か国の国旗を掲揚する場合には、旗に向かって左側が上位です。通常、日本に外国客を迎えた場合には、儀礼上、外国国旗を日本国旗に向かって左に掲げます。

(5) 国旗と国旗以外の旗の掲揚
国旗を上位とし、最初に掲揚し、最後に降納します。

(6) 各国国旗
国際会議では、参加各国の英語名のアルファベット順に配置します。

(7) 国旗掲揚の際の姿勢
起立して姿勢を正し、国旗に向かい敬意を払います。軍服以外の男性は脱帽します。米国式に、掲揚の間、右手を左胸に当てる国もあります。

縦長に掲揚する場合

国旗を縦長に掲揚する場合には特に注意を要します。アメリカ合衆国国旗の場合には、星の部分（カントンといいますが向かって左上部にくるようにします。旗としては裏側が表になります。カナダ国旗の場合には、楓の先端が向かって左側にくるようにします。

国歌

正しい国歌を演奏します。
外国の賓客を迎えた公式行事では、相手国歌を先に、自国歌を後に演奏します。

日本の国歌は、1999年8月13日の法律第127条（略称「国旗国歌法」）

で初めて「君が代」が国歌として正式に決められ、即日施行されました。

通常、どの国の国家が演奏される場合でも、起立して姿勢を正すのが礼儀です。

弔旗・半旗 (half-mast)

① 弔意を表す場合には、半旗とします。
一端最上部まで揚げてから、上げます（どこまで上げるかの規定はありませんが、通常は、ポールの中間に旗の上辺がくるまで上げます）。

② 室内掲揚

半旗の代わりに、旗竿の竿頭の球を黒布で包み、旗の最上部から黒リボンを下らすこともあります。

③ 外国国旗は、その国の許可がない限り、半旗にはしません。

私が2016年3月7日に、客船「飛鳥II」でハワイへ上陸した際に、港には米国旗（星条旗）とハワイ州旗が半旗になってのを見ました。調べたところ、レーガン元大統領夫人のナンシーさんが逝去されたために弔意を表しているとのことでした。

卓上旗

日本国旗と外国国旗を卓上に置く場合も、国旗掲揚の原則に準じて置きます。

車旗

国家元首や外国大使が公務で乗車の場合には、国旗または国旗と大統領旗などの両方を付けます。

CURTSEY（カーテシー、跪礼）

跪礼とは、主として婦人が行う立礼の一種で、最大限の尊敬を表わすための敬礼方式です。男性が跪礼を行う場合には神前や高僧の前ですが、婦人の場合には、皇帝や皇后、皇族に対してもカーテシーを行います。

宮廷の特別な儀式の場合には、元首に対して行う厳かな跪礼は、左足の後ろに右ひざを入れて深くひざまずきます。普通、高貴な方に対して行う跪礼は、左足（右足の人もある）を後方に引いてひざまずく程度での動作でよいとされています。このとき、同時に右手を差し出して握手をします。また、和服着用の際にはしないとされています。

礼砲

礼砲は、各国とも海軍規則と国際規約によって規定されており、答礼砲を発することのできる港湾との間に交換されるものであります。礼砲の交換は、国家と国

家との敬礼交換と同意義であり、国家間の敬礼方式の一つで、要人の公式訪問、軍艦の公式来航などの際に、敬意を表すために発する空砲を言います。礼砲の数については、次のように定められています。

君主、大統領、皇族に対しては21発、副大統領、首相、国賓に対しては19発、大使、大将对しては17発、公使、中将对しては13発、代理大公使、総領事、少将に対しては9発、領事、大佐に対しては7発。

因みに、21発の礼法のことを、National Salute または Royal Salute とくま。ウィスキーの21年物に Royal Salute というものがあります。

礼砲を最初に発するのは、来航の外国軍艦であります。礼砲発射中は、軍艦のマストには入港国の国旗を掲げ、入港地軍官憲は、来航の外国軍艦に対して、礼砲を発して答礼とします。

もし、外国軍艦に元首か、礼砲を受ける皇族が大使が乗っている場合には入港地の軍官憲から最初に礼法を発します。この場合には、来航の外国軍艦からはこの礼砲に対して、答礼の礼砲発射は行わないことになっています。

ドレス・コード (dress code)

服装指定のことをドレス・コードといいます。国際儀礼でのパーティーの招待状には、ドレス・コードが記されていることがほとんどです。通常、女性の服装は男性と同格のものを着用します。

近年、服装は簡略化し、男性は礼服（燕尾服、モーニング・コートなど）を着る機会はほとんどなくなりました。多くの場合、平服（ラウンジ・スーツ）か、かしこまった行事でもダーク・スーツで十分です。女性については、その昔は、「ローブ・モンタント」「アフタヌーン・ドレス」「カクテル・ドレス」「イヴニング・ドレス」など、一日の時間帯や行事の格にに応じて、ふさわしい服が細分化されていました。現在では、色、デザイン、素材など多種多様な選択が通用しています。多くの場合、昼間着用する服（デイ・ドレス）、夜の食事に着用する服（ディナー・ドレス）だけ区別しているのが現状です。

ドレス・コードの目安

男性

昼の正礼装はモーニング・コート。昼／夜の略（礼）装は、平服もしくはダーク・スーツかラウンジ・スーツ。夜の正礼装は、ホワイト・タイ（燕尾服）。夜の準礼装はブラック・タイ（タキシード）。

ド）。

女性

昼の正礼装はアフタヌーン・ドレス。昼／夜の略（礼）装は、平服（ワンピース／スーツなど）。夜の正礼装は、ロングイヴニング・ドレス（ヒール丈、または、トレーン丈）。夜の準礼装は、セミイヴニング・ドレス、または、ディナー・ドレス（くるぶし丈、または、ヒール丈が正式）。

一般的な注意

場違いでない服装をするためには、次のような注意が必要です。

(1) TPO

TPO (Time, Place, Occasion) により判断します。

T 午前、午後、夜などで判断します。

P かしこまった場所か、気軽な場所か、保守的か開放的かなどの土地柄で判断します。

O かしこまった行事か、カジュアルな行事かで判断します。

(2) ドレス・コードが不明の場合

ドレス・コードが不明の場合には、主催者に照会します。特に王族、高僧が臨席する行事では、予め主催者側にドレス・コードを確認しておく必要があります。法王に謁見する場合、女性は胸、腕など

の肌が隠れるような服、ベール着用、アクセサリーは真珠が望ましいなど。一般的には、ホストに礼を失いたくないために、ドレス・アップの方がドレス・ダウンよりも無難です。

(3) 祝儀、不祝儀での服装

結婚式で女性の参列者は花嫁衣裳と競合する白は通常は避けます。外国での不祝儀では、黒以外の地味な色やデザインのものでもよいとされています。

(4) 民族衣装(和服)

ドレス・コードに「ナショナル・ドレス」と書かれている場合には、和服で通用します。

男性の場合は、紋付、羽織、袴。女性の場合は、無地、付下げ、訪問着、色留袖の中から適切なものを選びます。黒留袖は座ると上半身が黒一色になるため、社交の席では、より華やかな色留袖が好まれます。平服と指定されている場合でも、通常は「つむぎ」や「おめし」は着ません。

紋については、「五つ紋」「三つ紋」「二つ紋」などの格付けがありますが、今では、かしこまった席でも「一つ紋」でもよいとされています。

(5) そのほかの注意すべき点

かしこまった席で着るダーク・スーツ

は黒背広ではなく、「黒っぽい」色の背広のことです。

男性は肌が見えない長い靴下を履きます。帽子は、室内では脱ぎます。最近、コンサート会場やレストランで、あるいはパーティー会場、教会やチャペル、仏教寺院などで着帽のままの方を見かけることがあります。常識を疑われます。国の内外を問わず、宗教施設では、タック・トップ、ショート・パンツなど肌を露出した服装は不適切です。

最近特にパーティー会場などでよく見かける光景は、男性がズボンや上着のポケットに片手や両手を入れている姿です。これなどは決してよいマナーとはいえません。また、すぐに腕組をする癖の方がいますが、これなども傍から見ると横柄に見えるので、避けたい行動です。

勲章について

勲章、褒章は、国家または公共のために優れた功績を挙げた人に元首から授与される名誉の印です。その取り扱い「勲章等着用規程」に沿って着用します。勲章などは国や地方公共団体主催の行事、長寿祝賀会、結婚式などの祝事に着用します。勲章は、燕尾服(女性はこれに相当する服装)、制服に着用するのが原則

です。勲章の種類に応じて、モーニング・コートや平服に着用してもよい場合についても規程があります。

日本の勲章と外国勲章を合わせて着用する場合は、①日本の勲章、②外国の勲章、③日本の褒章または記章、④外国の記章の順が原則です。ただし、外交上、外国の勲章を上位に着用する場合があります(例・外国元首のための宮中晩餐会、外国大使主催の行事など)。

(2018年11月1日・公開フォーラム)

筆者略歴(こぐれ みきお)

1945年東京都中央区生まれ。1968年明治学院大学社会学部社会学科卒業。2008年結び文化研究所所長、主任学芸員(自称 結びの伝道師)。2006年The International Guild of Knot Tyers (IGKT) 日本人会員第1号。2010年日本結び文化学会会員。2011年NHK文化センター講師、読売・NTV文化センター講師、産経学園講師。2012年社団法人青少年交友協会講師、えびす大学講師、客船「飛鳥II」船上講師。

公開講演会記録

武蔵国高麗郡の建郡と渡来人

— 古代の日朝関係について

東洋文化研究会会長 岩下壽之



■はじめに

二〇一六年は武蔵国に高麗郡^{こま}が建郡されてからちょうど一三〇〇年だった。地元の日高市の高麗地域では官民一体のさまざまな催しが行われ、学術シンポジウムなども何度か開かれた。建郡のシンボルとなったのはJR八高線の高麗川駅から徒歩十五分にある高麗神社である。ここには建郡にまつわる高麗^{しやうらい}若光伝説が存在しており、今度の「建郡一三〇〇年記念行事」においても精神的支柱の役割を果たした。

私もこの年は何度か高麗川を訪れ、神社や関連する寺院を見て回り、シンポジウムにも参加した。興味は尽きなかった

が、訪れるたびに、そして文献などを調べると、疑問点もいくつか浮かび上がってきた。謎は二つある。一つはこの時期（七一六年）になぜ東国七か国から一七九人もの高麗人を呼び集めて一郡をつくる必要があったのかということ、初代郡司を務めたという高麗若光なる人物の来歴である。

前者については、数ある高麗郡建郡に関する研究論文でも疑問を差し挟んだものはほとんどなく、ただこの地域の発展を導いたためだいたい出来事という指摘が既成事実化した論調があるのみである。後になって、わずかに一件だけ、推断の部類に入るが、この点に踏み込んだ論文を見つけることができた。推断とはいえず卓見とも言うべき論調で、思わず溜飲が下

がった。これについては後ほど少し丁寧に紹介してみたい。

後者の高麗若光なる人物に関する研究も、ほとんどなされていない。資料が少なすぎて言及が遮られるのである。ただ、高麗神社に残されていた系図などの文書（鎌倉時代に焼失している）と伝説での存在と来歴が語られているだけで、真偽のほどは闇の中である。伝説や伝承は、火のない所に煙は立たずで、むげに否定すべきものではないが、あまりに証拠を欠いているので事実を引き出す決め手がない。「伝承」という言葉でその生涯の大部分を括るしかないのである。

今日のお話も、これら疑問点を提示するのが目的で、その解明を企てたものではない。事実かどうか判然としない事

柄が事実の如くまかり通っていることに注意を喚起し、さらなる究明に役立てたいという一心からのアプローチである。

■高麗郡建郡の詳細

我が国の正史の二番目である『続日本紀』の巻七、靈龜二年（七一六）五月十六日に次のような記事がある。

「駿河・甲斐・相模・上総・下総・常陸・下野、七国の高麗人千七百九十九人を以て、武蔵国に遷す。始めて高麗郡を置く」

『続日本紀』は文武天皇から桓武天皇まで、飛鳥時代後期から奈良時代の終わりまでの九十五年間の事績を記した編年体の史書。事実だけを淡々と述べたある意味では味も素っ気もない書き方をしてゐる。高麗郡建郡に関してもこれ以外は全く言及がなく、事ここに至るまでの経緯や目的などは一切ない。これが前述の謎を呼ぶ原因の一つともなっている。

七一六年といえば平城遷都からわずか六年後である。そうでなくてもこの時期は律令体制の整備が急がれている日本の古代政治の成立期に当たる。遷都に象徴されるようなさまざまな政治改革がいろいろ行われたが、新郡の設置も地方行政

改革の一環であった。高麗郡以外にもいくつかの渡来人集団の郡がつくられた。が、複数の、しかも同じ東国からとはいえ七つもの国から出自を同じくする渡来人を、一か所に集めて建郡した例は他にない。よほど特殊な事情があったと考えざるを得ない。

記事中の「駿河」以下七か国は当時の「五畿七道」の行政区分から言うところ、「下野」以外はすべて東海道に属する。ちなみに武蔵国はまだ東山道の一部で、東海道に移管されるのは奈良時代の後期、七十七年である。「東国」は現在の関東地方とほぼ重なるが、「甲斐」と「駿河」は「一都六県」から外れる。「上野」が入っていないのは五年前の七十一年にこの地に「多胡郡」ができたせいだろう。「安房国」はこの二年後に上総から分離して建国されるので、まだ存在しない。

「高麗」は高句麗のこと。「こま」と呼ぶのは、後に朝鮮に建国される「高麗」王朝（九一八～一三九二年）と区別するためのわが国の慣例的呼称である。高句麗は五世紀初めの長寿王のとき王朝名を「高麗」と改めたので、中国の歴史書でも「高麗」である。「こうらい」と読むのは後の高麗王朝の場合だけで、高句麗の場合は「高麗」と書いてすべて「こま」と呼ぶ。

新しく高麗郡を置いた地は入間郡の一部で、当時の武蔵国には十九の郡があり、入間郡はほぼ中央に位置する比較的大きな郡だった。今の埼玉県西部に当たり、武蔵国は現在の埼玉県と東京都の大部分を含む地域である。なお、武蔵国は当時は東国でも最も開発が遅れたところで、海べりは葦の茂る湿地帯、内陸部は樹木と原野に覆われた丘陵地で人の住めるような場所ではなかった。東海道も武蔵の地は避けて通り、三浦半島先端から浦賀水道（走水）に入って房総半島の上総に抜けていた。つまり途中で海にもぐっていたのである。武蔵国の開発は七世紀の後半から盛んになり、東山道から武蔵国府に通じる「武蔵路」も開通して、発展に拍車がかかった。

このような状況のもと、奈良時代の初め、入間郡に高麗人の寄せ集め集団である高麗郡が成立したのである。建郡に際して、渡来一世である高麗若光は初代郡司として大きな力を発揮したと言われているが、その人物、事績に関しては前述の通り何ら確証がなく、伝承、伝説の形で一〇〇〇年を超える長期間語り継がれてきたのである。

■激動の七世紀東アジア

高麗若光に関しては、『日本書紀』の「六六六年十月二十六日」条に、列島に來航した高句麗使節団の一員として「二位玄武若光」という名が見える。高句麗が滅亡する二年前である。「二位玄武」が何を意味するかは不明だが、使節団員としての官職名ではないかという説がある。年齢は、七一六年の高麗郡の初代郡司であったという伝承から逆算すると二十歳をいくらか出ていなかったと思われる。使節団の目的は『日本書紀』は何も記さないが、百済の完全滅亡から三年後で次は高句麗が狙われている危急存亡のときだったので、大和朝廷への救援依頼であろうという点では識者の見解は一致している。

七世紀というのは、東アジアは激動の時代だった。前半までは朝鮮三国は互いに覇を競っていたが、まず百済が滅ぼされて脱落、次は高句麗を攻めるべく唐が暗躍、新羅もそれに手を貸そうとしていた。高句麗としてはかつては戦鬪を交えたこともある大和朝廷と手を結んで危機を乗り越えようとしていた。唐は隋朝が果たせなかった宿願の高句麗征討を、国

内をがっちり固めた太宗の後を受けた第三代皇帝高宗のもとで何とか実現させようと図っていた。大和朝廷は唐軍に逆らって白村江で手ひどい打撃を受けただけに、唐軍の報復を恐れて筑紫に水城や大野城を築き、さらに西日本各地に山城をつくって国内防衛施設の構築に汲々としていた。

そんな中で高句麗使節団の來航は大和朝廷にとってはお荷物だったはずだが、使節団をどのように迎え入れたかの記述は一切ない。正使と副使の名前もはっきり書いてあるのでまさか大宰府に留め置いて飛鳥に入京させなかったということはないが、そうであってもおかしくないような状況に朝廷はあった。翌六六七年には天智天皇（まだ称制時代）は近江の大津京に遷都したが、これは琵琶湖の水運で唐からの攻撃を飛鳥よりは防ぎやすいと判断したからとも言われている。六六八年二月には正式に即位して天智天皇となるが、この年の九月、高句麗はついに唐・新羅連合軍によって滅亡させられる。新羅は三国の覇者となったが今度は半島に居座ったままの唐軍の排除に苦勞する。何とか駆逐して統一新羅が成立するのは六七六年である。

高句麗滅亡で唐の脅威は薄れたものの、天智天皇は即位後三年にして薨去、翌六

七二年にはハ壬申の乱Ⅴが勃発する。我が国における古代最大の内乱と言われるハ壬申の乱Ⅴは大海人皇子の勝利で終わり、即位して天武天皇となり、ようやく大和朝廷も盤石の基盤を築くきっかけをつかむ。

「高麗若光」が史上に現れるのは、これよりずっとあと、七〇三年（大宝三）の四月四日になってからである。『続日本紀』の同日に「從五位下高麗若光に王姓を賜う」とあり、史書での「若光」の記述は前記の使節団一員としての來航と、この王姓賜与の二か所だけである。つまり、史実で確かめられる若光の來歴はこの二点だけということになる。

■東国と渡来人

渡来人はかつて「帰化人」と呼ばれた。が、一九六〇年代以降、古代史学者の上田正昭氏の提唱になる「渡来人」という名称が一般化して、今ではこれが定着している。「帰化」とは王の徳を慕って化外の民がその国へ移り住むことで、王化思想の反映である。飛鳥時代までの日本はまだ国家としての体裁は完璧とは言えず、大和朝廷を率いる天皇は「大王」という豪族連合の長にすぎなかったという

のが上田氏の見解である。海を渡って列島にやって来た人たちはなるほど「王の徳」を慕って渡来したわけではない。たまたま海の向こうに暮らしやすい場所を見つけて移って来ただけである。日本海を指す「北つ海」は列島と半島を隔てる壁ではなく、自由に往来できる内海（うちうみ）のようなものだった。

渡来の盛んだった時期は、弥生期の第一期、応神・仁徳期（五世紀前後）の第二期、雄略・欽明期（五世紀後半～六世紀前半）の第三期、七世紀後半の第四期と、四期に分けられるが、ここで問題となるのは第四期である。百済、高句麗の滅亡により、半島からの渡来人が急増した。上は王侯貴族から下は庶民に至るまで、多種多様な人々が亡命や移住の形で海を渡って来た。大和朝廷を中心とした列島の各豪族や民衆も渡来人には至って寛容で、「来る者は拒まず」という雰囲気があった。渡来人の故国である朝鮮半島は当時は列島よりはるかに先を行く文化的な先進国であり、さまざまな知識や技術を有していた。列島に住む「倭人」とっては実にありがたい存在だった。中でも渡来人がもたらした重要なものに、漢字（儒教や仏教の経典として）、製鉄・鍛造の技術、馬の導入と飼育があった。

た。これらは列島に住む倭人たちにとっては革命的な文物だった。その他、灌漑、養蚕、織布、製薬、酒造など、生活手段を格段に進歩させる技術にも長けていた。七世紀後半になると戦乱のために列島にやって来る渡来人が増えたため、大和朝廷は彼らを東国に移配するようになるが、それがまだ開発の遅れていた東国の発展に大きく寄与した。すでに東国は大和朝廷の支配下にあったとはいえないものの、国造の反乱などもあって治安は不十分で、この地が豊かになっていくことは人心の安定にも大きくつながった。さらに北方の陸奥や出羽などで頻発する蝦夷（えみし）の反乱に備える上でも、兵站基地として東国は重要な役割を担った。

渡来人は東国だけでなく列島各地にほとんどくまなく居住し、日本の古代の文化・文明に計り知れない貢献をした。先の上田正昭氏はその著『渡来の古代史』（平成二十五年・角川選書）の中で「多くの研究者は『渡来人の影響』というが、それはたんなる影響にとどまらない。古代の日本の文化そのものの担い手として活躍し、文化の創造にも注目すべき役割を果たしたというべきであろう」と述べている。

■東国の渡来人中心の郡

八世紀に入って律令制度の整備に伴う行政改革の一環として新しい郡をつくる動きが出てきたことは前述したが、渡来人を中心とした郡は東国において特に顕著だった。七一年には上野国に「多胡郡」、七十六年には武蔵国に「高麗郡」、七五八年には同じく武蔵国に「新羅郡」が誕生した。多胡郡はその名の通り「多くの胡人たちの集まった郡」の意で、「胡人」とはここでは渡来人を指す。なお、「百済郡」は百済が滅びて約二〇年後の六五〇年ごろにはすでに摂津国に成立していたので、ここに古代朝鮮三国の国名を名乗る三つの郡が大和朝廷支配下の列島に存在したことになる。

もともと上野国は渡来人が多く、特に西部には渡来人にまつわる地名や人名が目につく。明らかに朝鮮語から来たと思われる「甘楽（かんらく）」という郡名もあり、この名称は今でも使われている。いつごろから住んでいたかははっきりしないが、七世紀の激動期以前から定住していたことは新羅からの移住者が多いことから窺える。新羅は激動する七世紀の朝鮮半島の最終的な覇者であり、亡命者が出る必

然性はない。にもかかわらず新羅人が多いのは、「北つ海」(日本海)を渡って列島に移住する人々が古来後を絶たなかったからであろう。内乱や飢饉などもあったかもしれないが、新羅人にとっては海の向こうの土地が「外国」とか「異国」とかを意識させないほど自由に往来できる近い存在であったことを物語っている。この傾向は東国よりもむしろ中部地方から西にかけての方が強く、アメノヒボコやツヌガアラシトなど新羅王子の列島への渡来があちこちに伝承として残っている。

旧多胡郡には「多胡碑」があつて、建郡の由来が記されている。「羊」なる人物がこの地の支配を朝廷から任されたらしく、その名前から渡来人だと思われる、特に建てられた石碑の形態(方形の笠石を持つ)から「新羅風」が取り沙汰され、新羅人中心の郡だったことが想定される。ユニークなのは「多胡」とわざわざ銘打ったことで、百済、高句麗、新羅からの渡来人が仲良く共存していた様子が彷彿としてくる。なお、多胡碑は同じ群馬県の西部地区にある「金井沢碑」「山上碑」と並んで、二〇一七年にユネスコの記憶遺産に指定された。石碑そのものは日本には少なく、とくに古代のものは全国で

も十八例しかない。「上野三碑」は中でも最も古いものである。

多胡郡ができたせいで五年後の高麗郡の建郡では上野国からの参加がなかったらしいことは前述したが、片や上野、片や武蔵と国は違えど立て続けの渡来人の郡の設立はやや異常である。しかも多胡郡はその地に住んでいた渡来人たちの集合体であるうが、高麗郡は東国七か国からの高麗人の寄せ集めである。ここが何やら謎めいている。しかも高麗郡は高麗郷と上総郷の二つの郷(郡の下にある行政単位。五〇戸で一郷を成す)しかない小郡で、わざわざ独立させて郡をつくるほどの蓋然性はない。上総郷は上総に住んでいた高麗人が中心で、七か国の中では特別高麗人が多かったのだろう。それにしても、なぜ「七か国」なのか。東国と言っても、甲斐や駿河となれば中心地である下野や上野から見ればかなりの遠方である。

ここから、高麗郡建郡の謎が浮かび上がってくる。謎は先述したように二点。一つはなぜ高句麗滅亡から半世紀近くも経ったこの時期に東国各地から高麗人だけを寄せ集めて一郡をつくらねばならなかったのかという点、もう一つは建郡に功績があり初代郡司を務めたという「高

麗若光」なる人物の真偽を明らかにすることである。この二つはまったく別個の問題ではない。底の部分では通じ合っている。明確な解答があるわけではないが、何が問題なのかを若干の推測を交えて考察し、謎の謎たるゆえんに迫ってみようと思う。

■高麗郡は朝廷の難民対策だった？

神奈川大学経済学会編の『商経論叢』45号(2010年3月31日刊)に河野通明氏の「民具から見た百済・高句麗難民の動向」という論文が載っている。これに出合ったのは「高麗郡建郡一三〇〇年記念」のほとぼりが冷めたころ、二〇一七年の初めだった。前年にはシンポジウムや講演会に出たり、いくつかの論文やエッセイにも接したが、「東国七か国の高麗人を一か所に寄せ集めての建郡」という一大プロジェクトがなぜこの時期に朝廷の手によって行われたのかは不明だった。建郡の意図や動機に触れた論述は皆無で、この企画の壮大だけが独り歩きしていた。バラ色のイメージだけが先行して、その意味を問おうとはしなかったのである。

この河野氏の論文に出合ったのはネッ

トで別の事項を検索中に関連資料に含まれていたからで、発表されてからすでに六年が経過していた。それなのに「一三〇〇年記念」にはこの論説を紹介した記述には全く出合わず、完全に黙殺されていた。このときだけでなく、前記の大学紀要に発表された時点でも話題にはならなかったようである。

河野説の骨子は、高麗郡の建郡は「高句麗滅亡後半世紀を経てもなおくすぶり続ける難民問題をこの機会に一举に解決すべく」(前記論文からの引用、以下同じ)朝廷が打ち出した最終決定策だったというものである。高句麗の滅亡によって列島に渡来した高麗人たちは東国各地に移配されたが、「入植地の自然的・社会的環境にうまく適合できなかった人々」が大勢いて、彼らの不平不満をいかに和らげるかが朝廷の悩みの種だった。高句麗滅亡後間もなく甲斐国には高麗人集団による「巨麻郡」ができているが、この中にも不満分子はいた。東国の他の地域は推して知るべしで、高句麗からの亡命移住者の中になぜ特に不満を持つ者が多かったかは河野氏も言及はしていない。が、これに関しては私は高句麗人独特の民族性が関係していたのではないかと思う。文武に長けた北方遊牧民族の血を引く高句麗

人は、農耕国である韓族の百済や新羅の人々とは違って誇り高い民族であり、世が世なら半島に覇を唱えてもおかしくないという自負があったような気がする。

河野通明氏は古代の農具の専門家で、特に犁や鋤に関しては日中韓の歴史に詳しい。氏によれば、甲斐の巨麻郡の高麗人は渡来後も故国の農具をそのまま使用していたが、武蔵の高麗郡の人々にはその痕跡は見出せない。故国が滅亡して半世紀近く経っているので高麗郡成立に伴う移住者はすでに二世三世のほぼ日本人化した人々と考えられるが、彼らは父祖伝来の農具ではなく土着の倭人と同じ犁や鋤を使っていた。つまり一世の高麗人は渡来した時点ですでに伝統的な生活様式を捨て去り、列島をさまようディアスポラになってしまっていた。こういう人々が不平不満を抱いて東国各地に点在していたわけである。

朝廷はこの状況の危険性を早くから把握していたが、対策を考えているうちにいたずらに時がたって、高句麗滅亡から四十八年後に到ってようやく最終解決策を見出した。半ば賭けのような不安と危惧もあったろう。が、幸いなことには、互いに離れて住むとはいえ東国の高麗人たちには「同国出身の高位者のもとの」

集住願望があった。それを朝廷内部の議政官で北武蔵と縁の深かった阿倍氏や、さらに地元の豪族・文部直や壬生吉志らの協力のもとで実行に移した。集住願望には「列島内にかつての高句麗王国を！」という再興への夢もあったかもしれない。折も折、彼らの間には七〇三年に王姓を賜与されていた「高麗王若光」という半ば神格化された人物がいた。東国だけでなく、「高麗王若光」の名前は全国の高麗人の間で知らぬ者はなかった。

■高麗王若光の伝承

神奈川県西部に大磯という町がある。ここには「高麗山」があり、「高麗」という町域名がある。「高麗神社」もあったが、これは明治になって「高来神社」と改称されたが音読みでは「こうらい」である。高麗寺もかつてはあった。大磯は「湘南」という地名の発祥地であり、モダンな避暑地、海水浴場としてのイメージが強いが、この地には「高麗」がふんだんにある。

実は大磯は高麗王若光と深い関わりのある地なのである。奈良時代の初め、この地に船でやって来た高麗人たちが一時滞在したという伝承がある。この話は

磯名物の夏祭り「御船祭り」で木遣り唄となつて語り継がれている。船上の翁は自らを「高麗国」から来た守護だと名乗り、後に高麗神社に権現として祀られる運命を集まった漁民たちに予言する。高麗山の頂にはかつて高麗権現を祀る社があったが、荒廃して今では麓の「高来神社」に遷されている。神宮寺として高麗寺もあったが、これは明治期に廃寺となっている。

高麗王若光の名前はないものの、渡来人がこの地に上陸したという事実はこの伝承からほぼ間違いないと言える。加えて「高麗」の付く山名や町名の存在。地名は一般に人名に先んじた歴史の真実を明かしてくれる。おそらく高麗王若光の一行は奈良時代の初めに大和から陸路伊勢に出て、海路をとって相模に達したのだろう。当時は日本海沿いの北陸や山陰が「北つ海」を渡る主要なルートとして「表日本」の賑わいを見せていたが、太平洋側にも「裏日本」とはいえささやかな沿岸航路はあった。大磯も漁港兼中継港として相模灘の重要拠点だったと考えられる。しかも地名その他から相模の国一帯には渡来人が大勢住んでいたことが確かめられている。高麗王若光が熱烈に歓迎されたのも当地に高麗人が多数居住しており、高麗王若光の名が彼らに知れ

渡っていたからであろう。

この後、高麗王若光の一行は陸路を東に進み、相模川を渡ってから内陸に進路を変え、やがて「高麗郡」となる高麗の地を目指して相模台地、武蔵野台地を一直線に北上したものと思われる。高麗の地に着いたのは建郡の四、五年前、七十二年ごろと推定される。初代郡司を務めるとなると、事前にある程度現地の状況をつかんでおく必要があったはずである。高麗郡は台地で水利はよくなかったが、全く未開の原野というわけではなく、少数の在地人や渡来人が開墾しながら細々と暮らしを立てていたはずである。

前述した通り、「若光」に関しては、文字資料としては渡来時の記録、しかも高句麗滅亡二年前の「二位玄武若光」という謎めいた肩書きを持つ『日本書紀』と、七〇三年の「高麗若光に王姓を賜う」という『続日本紀』の二点しかない。藤原宮跡からは「□□若光」（□□は「高麗」説が有力）という木簡も見つかっているが、こちらの方が「若光」の実在を如実に示しているような気がする。あとは伝承、伝説ででき上がった人物像で、真偽のほどは定かではない。が、JR八高線の「高麗川」駅で降りて高麗神社を訪ねると、高麗王若光は実在したと信じ

たくなるから不思議である。没後は高麗神社の祭神になったそうだが、代々の宮司は「高麗氏」を名乗り、現在で六十代目というのも何やらいわくあり気である。（2018年12月13日・公開フォーラム）

筆者略歴（いわした としゆき）

1939年大阪府豊中市生まれ。幼年期を中国・大連市で、少年期を長野県佐久市で送る。東京教育大学文学部卒。都立高校教員を経て、2000年から5年間、中国の大学で日本語教師を務める。

主な著書

・『大連だより——昭和十六〜十八年・母の手紙』（1995年）、『大連・桃源台の家——昭和十九〜二十年』（1997年）、『大連を遠く離れて——昭和二十一〜二十三年』（1998年）。以上の〈大連三部作〉で「第17回山室静 佐久文化賞」を受賞。

・〈遣唐使三部作〉『井真成、長安に死す』（2010年・鳥影社）、『円載、海に没す』（2013年・鳥影社）、『定恵、百済人に毒殺さる』（2015年・鳥影社）、『ディアスポラ、高麗への道』（2018年9月・鳥影社）。

中国から伝わった香りの文化

元神奈川大学講師、平安朝香道宗師 長谷川景光（会員）

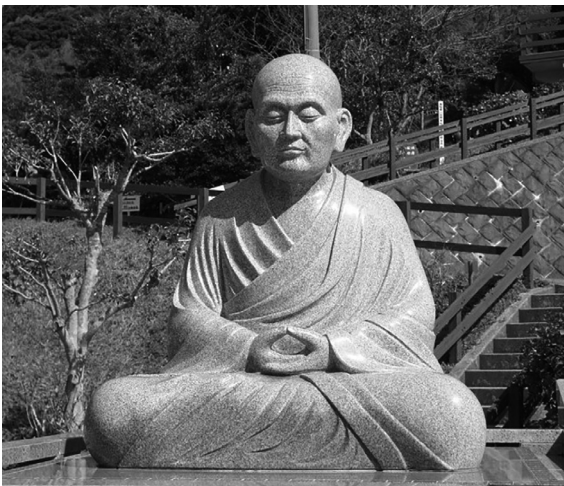
一、鑑真が伝えた薫物

鑑真は唐の時代に揚州に生まれ、十四歳で出家して洛陽・長安で修行を積み、七・一三年に故郷の大雲寺に戻り、そこで江南第一の大師と称されるようになりました。

天宝元年（七四二）、第九次遣唐使船で唐を訪れていた留学僧の栄叡、普照から、朝廷の「伝戒の師」としての招請を受け、渡日を決意しました。その後の十二年間に五度の渡航を試みて失敗、次第に視力を失うこととなりましたが、天平勝宝五年（七五三）、六度目にしようやく日本の地を踏むことができたのです。

その後、七十六歳までの十年間のうち

五年を東大寺で、残りの五年を唐招提寺で過ごし、天皇をはじめとする多くのの人々に授戒をしたことで知られています。



鹿兒島の鑑真記念館の鑑真像

しかし、鑑真は仏教だけでなく、書道、彫刻、医薬、そして薫物（たきもの）の調査法もわが国に伝えたといわれています。また、来日に際し薫物に用いる香材である沈香木、麝香、甲香、甘松、竜腦、占糖、安息、栈香、零陵、青木、薰陸などを持ち込んだことが『過海大師東征伝』に記されています。

このように、鑑真が苦難を乗り越え、日本にやって来なければ、香文化の発展もなかったのかもしれない。

二、医香同源

私は常々「医香同源」と表現しています。医とは、具体的には中国の医薬である漢方を意味し、香材のほとんどが漢方薬でもあると共に、薫香が治療に用いら

れていたことにも依拠しています。

香が医薬品として用いられ、肉体的にも精神的にも効果があることは、六千年前の古代エジプトのパピルス文書に記されているほどです。また、現代ではアロマテラピーという言葉が日常語となっているように、香りの癒し効果に注目されています。

そこで、唐代を代表する医薬書である『千金方』、および『千金翼方』を紐解き、薫物に関係する香材、そして処方調べてみることにしました。

まず、『千金方』は六五〇年代に唐の孫思邈（六〇一～六八二）が著し全三十巻にもおよびます。思邈は中国、唐代の名医であり、出自は京兆・華原（陝西省耀県）で薬上真人と尊称され、医神として道教の廟に祀られています。

また、老荘百家の学に通じ、仏典に詳しく神仙家としても名を馳せました。隋の文帝の時、国子博士に召されましたが拝受せず、唐の太宗帝の時にも顕慶中、諫議大夫に召せられましたが、またしても固辞して受けませんでした。思邈は著述に専念するため深山に隠れ、『千金方』『千金翼方』の他、『福録論』『撰生真錄』を著したのです。

『千金方』の書名については、書中に

「以為備急千金要方一部凡三十卷」とあることから、十一世紀、北宋の時代に林億らが治平本を刊行するにあたって「備急千金要方」を正式名称に採用しました。そこには「人命の重さは千金の貴さがある」という高邁な精神を題簽としており、『千金方』は、魏晉南北朝から隋唐までの臨床医学と鍼灸医学の知識を集大成した医薬書として、その名を知らしめています。

最も大事なことは、この『千金方』が日本にいつ伝来したかということなのです。日本最古の記録は藤原佐世の『日本国見在書目録』（八九一）に「千金方三十一孫思邈撰」と著録されており、遅くとも遣唐使廃止以前に日本に伝わっていたこととなります。

北宋時代の改本の構成は、全九篇で、第一巻は序、巻二～四は婦人病、巻五は小児病、巻六は七竅病、巻七は風毒脚氣、巻八は諸風、巻九～十は傷寒、巻十一～二十までは五臓五腑の病とその治方、巻二十一～二十二は消渴、淋閉、尿血、水腫、巻二十三は丁腫、癰疽、巻二十四は痔漏、巻二十五は解毒、難治、巻二十六は養急、巻二十七は食治、巻二十八は針灸となつています。

一方、『千金翼方』も全三十巻で、『千金方』の不備を扶翼する目的で撰述したとされています。成立の年次は不詳ですが、『千金方』の成立以後、思邈没（六八一）以前に完成したことは間違いないでしょう。現伝本の『千金翼方』は『千金方』の場合と違い、林億ら宋臣の手を経たものしか存在しません。

日本にいつ頃伝わったのかは不明ですが、丹波行長の『衛生秘要抄』（一二八八）にその引用があることから、遅くとも鎌倉時代には伝来していたこととなります。

現伝本の構成は、巻一～四は本草、巻五～八は婦人、巻九～十は傷寒、巻十一は小児、巻十二は養生、巻十三は辟穀、巻十四は退居、巻十五は補益、巻十六～十七は中風、巻十八～二十は雜病、巻二十一～二十二は飛棟、巻二十三～二十四は瘡癰、巻二十五は色脈、巻二十六～二十八は針灸、巻二十九～三十は禁經となっています。

三、唐代の香りの文化

『千金方』『千金翼方』を読み解くと、唐の国における香りの文化の一端が窺えます。具体的には、香りに関する処方を

用途別に、①口臭を消し、口を香らせる方法、②腋臭を治す方法、③身体を香らせる方法、④衣服を香らせる方法、の四項目が記されています。

各項の一例をご紹介します。

①口臭を消し、口を香らせる方法

・五香丸の口臭および体臭を消し、煩を止め、気を散らし香らせる方法

豆蔻 丁香 藿香 零陵香 青木香
白芷 桂心各一両 香附子二両 甘松香
当歸各半両 檳榔二枚

以上の十一種類を粉末にし、ハチミツで練り丸薬にする。大豆くらいの大きさの丸薬を含み、昼三回、夜一回ずつ汁を飲む。五日で口が香り、十日で身体が香ります。十四日すると着ている衣服が香る。二十一日たつと風下ににいる人に香りがわかり、二十八日すると手を洗った水が地に落ちて香り、三十五日たつと、他の人の手をとれば、その人の手まで香る。五辛を慎めば気を下げ、臭いを消す。

②腋臭を治す方法

・胡臭を治す方法

辛夷 芎藭 細辛 杜衡 藁本各二分
右の五種類を細かく碎き、いい酢に一晚漬けて、煎った汁をとり、これをつけ

る。つける時は就寝直前で、治ればそれでいい。

③身体を香らせる方法

・七つの穴の臭いを消し、皆を香らせる方法

沈香五両 藁本三両 白瓜弁半升 丁香五合 甘草 当歸 芎藭 麝香各二両
右の八種類を粉末にしてハチミツで練り丸薬とし、食後に小豆大の丸薬を一日に三回服用すること。長く服用していれば、身体をはじめ、皆香る。

④衣服を香らせる方法

・いぶして衣服を香らせる方法

雞骨煎香 零陵香 丁香 青桂皮 青木香 楓香 鬱金香各三両 薰陸香 甲香 蘇合香 甘松香各二両 沈水香五両 雀頭香 楓香 白檀香 安息香 艾納香 各一両 麝香半両

右の十八種類を粉末にし、二升半のハチミツで煮ておく。大きなナツメ四十個を蒸してやわらかくし、粥のようにやわらかくなるまで揉みつぶす。布でこのかすを絞りとり、そこに上記の香料を混ぜて、むぎこがしの程度まで湿らせ、杵で五百回搗き、丸めたものを七日間密封してから使う。香料は湯せんで煮て、火気

を消さねばならない。そうでないと焦げ臭くなる。

以上の四つの項目のうち、最後の衣服を香らせる方法に用いられるのが、薫香、すなわち香を焚くという行為なのです。

そして、医薬書には記されていないのですが、この他に重要な唐の国における三つの薫香文化があります。それは、国家行事に用いられる薫香、宗教儀式に用いられる薫香、そして室内で焚かれる薫香なのですが、今回は紙幅の関係から詳述を省かせていただきます。

四、勅撰『薫集類抄』

土御門天皇の曾祖父で、紫式部の血胤（来孫）である平安末期随一の知識人、それが藤原範兼（一一〇七〜六五、通称岡崎三位）です。歌人、歌学者として知られていますが、二条天皇に元号考案を命じられただけでなく、長寛年間（一一六三〜六五）に『薫集類抄』の撰修を命ぜられました。

同抄は、日本に現存する最古の薫物指南書であり、私が開基した平安朝香道の宝鑑（手本となる書物）としています。薫物に関する書物は多い中で、三条実隆

の家伝書『四辻家薫物書』のような私撰書とは異なり、公的な勅撰書として纏められた同抄は、その格式だけでなく信憑性、歴史性という観点からも極めて貴重な書物と位置づけられます。

そして、唐代の医薬書に書かれた四つの方法を含め、国家行事に用いられる薫香、宗教儀式に用いられる薫香、室内で焚かれる薫香の全ての調合法が記されているのが同抄なのです。

同抄は、「諸方」の帖から始まり、二十七種、百七方もの貴重な調合法が収載されています。そして、二十六人の合香家の名は時系列に並べられており、同じ名の薫物でも合香家によってその香りは驚くほど異なり、この時代の美意識と感性の豊かさを感じます。

同抄には、この他に飲む、塗る、入浴に用いるなどの合香の方（調合）が示されています。また、和合（ブレンド）した薫物は、埋み（うずみ）という熟成を行います。薫物の天敵は黴（かび）ですので低温熟成が基本です。その一方で、加熱し発酵させる指示がある方もあります。「控えめであり秘することが雅（みやび）」とされた平安時代の美意識によって書かれた文献を読み解くのは難しくもあり、また楽しくもあります。



藤原冬嗣（模写図）

同抄に収載されている諸方の筆頭に掲げられているのが藤原冬嗣（七七五〜八二六）の調合法です。

冬嗣は嵯峨天皇の文化人グループの一員として詩集に作品を遺しているだけでなく、日本初の薫物香道を確立した人物です。嵯峨天皇の側近として信頼が厚く、太政大臣が追号されましたが、同抄には閑院左大臣の名で記されています。

平安朝薫物の同義語として扱われる六種（むくさ）の薫物において、冬嗣は原

基となる合香家であり、筆頭に掲げられています。すなわち、梅花（ばいか）、侍従（じじゅう）、黒方（くろぼう）の薫物を最初に作り、平安朝薫物の礎を築いただけでなく、わが国最初の香道家であると位置づけられるのです。

閑院左大臣

梅花

沈八両二分 占唐一分三朱 甲香
三両二分 甘松一分 白檀二分三
朱 丁子二両二分 麝香二分 薰
陸一分（二分の説あり）

侍従

沈四両 丁子二両 甲香一両已上
大 甘松一両 熟鬱金一両已上小
黒方

沈四両 丁子二両 白檀一分 甲
香一両二分 麝香二分 薰陸一分
已上大

冬嗣は、永井路子著の『王朝序曲』（角川書店刊）の主人公として描かれるほど、魅力的で多才な人物ですが、残念ながら香道家としての側面はあまり知られていません。

五、唐から伝わった香の調合法

勅撰『薫集類抄』は、日本に現存する最古の薫物指南書であり、公的な勅撰書という固いイメージがある一方で、平安時代の宮女にとっては、先進的な唐の国から伝わった美容情報も掲載されている、マニュアル本のような側面があると、常々説いています。

まず、同抄に記載されている調合法のほとんどは平安時代に日本で考案されたもののようですが、十一の調合法については明らかに唐の国から伝わったと考えられます。それは、服用すると衣服が百日間も香するという「令人躰香」、湯の中に入れて入浴し体を香らせる「浴湯香」、衣服に焚き染めて香らせる「建医師衣香



清代に描かれたと思われる寿陽公主

方」、白粉（おしろい）のように顔や体に塗り付け香らせた「香粉方」、丸薬の形状ながら線香のように火を付けて香らせた「焼香方」、乾燥させた香粉を型枠に入れて形成し火を付けて香らせた「印香法」、宗教の儀式に用いた「供養香」「金剛頂経香」「観世音菩薩留湿香」、そして女性が化粧に用いた「落梅公主潤面膏方」「丹陽公主甲煎方」です。本稿では、最後の二つの調合法について解説させていただきます。

最初に「落梅公主潤面膏方」についてですが、次のように書かれています。

落梅公主潤面膏方。

新雕經驗藥方云。

酥。一斤員者於銀器内漫火煎。成油用。鰲梨汁。少計。海塩花。一兩研。馬牙硝。一兩。柳汁。少計。右件藥。與諸般都入酥内。用東南嫩柳枝子七茎長七寸。用生緋線逐寸札。将此枝子。早晨面日東吸咽。氣噴在酥内。将一茎枝子。右漫二十七轉。其柳枝子頭微黃色。用刀子於線上載却。如是法。七茎柳枝子。直候使尽為度。此膏以成。用淨合子盛貯。以代面油使用。

落梅公主とは寿陽公主の通称で、中国南北朝時代の南朝方である宋の武帝（在位四二〇～四二二）の娘（皇女）です。

唐の時代を代表する美女としてその名を知られ、左記のように寿陽公主がある日、含章殿の梅の木の下で眠っていたら、梅花が散りその一片が彼女の額について離れなくなった、これを梅花粧として宮女が皆額に梅の花びらをかたどった化粧をほどこしこれにならったとされています。これは、梅花粧とも寿陽粧ともいわれています。

宋武帝女寿陽公主、日臥含章殿、檐下梅花落額上、成五出花、拈之不去、皇后留之、後人効為梅花粧。（『粧樓記』）

寿陽公主の末路は悲壮で、敵方である北魏の爾朱世隆（五〇〇～五三二）に捕らえられて洛陽に送られ、手籠めにされそうになりましたが、従わずに殺されました。

さて、肝心の調合法ですが、潤面膏方とあるように顔を潤すための軟膏、現代で言えばフェイスクリームのことです。調合についての詳述は控えますが、多くの、費用、時間をかけて開発した、当時の最新技術による化粧品であったと考

えられます。

次に「丹陽公主甲煎方」についてですが、次のように書かれています。

丹陽公主甲煎方。或蔡尼字歟。

沈香六兩。丁香四兩。風香膏二兩。或本一見。青木香二兩。麝香一兩。浅香四兩。棗十枚、去皮。甲香三兩。

凡八物剉。蜜合和。若坩裏綿或本作棧員。幕作棧久酒油六升。零陵香四兩。甘松二兩。綿幕着油裏。煎須緩火。可四沸油。即上去香草香油。着坩裏出口。將小香坩合大坩口。溫紙纏口塗封。可七分。須多着大。從旦至午。過午即須緩火。至四更即却火。至明從冷発看。成甲煎。

丹陽公主とは、唐の初代皇帝である高祖（五六六〜六三五、李淵）の第十五皇女のことです。

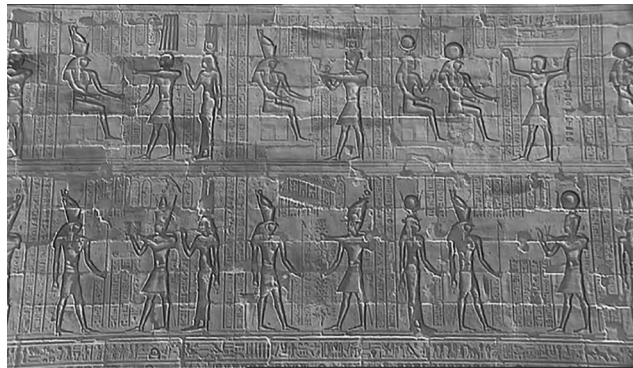
その丹陽公主の夫となるのが薛萬徹（せつばんてつ、生年不詳〜六五二）で、萬徹は唐の建国後、皇太子である建成に仕え、玄武門の変後に終南山（唐の王維など多くの詩人に詠まれた標高約三千メートルの山）に逃げていましたが、建成が失脚し第二代皇帝となった太宗が重ねて萬徹を招聘し、ついには太宗に仕えるこ

とになりました。そうして、太宗の家臣となり萬徹に降嫁させられたのが丹陽公主でした。

次に甲煎方の甲煎ですが、香料と油を混ぜ合わせて、煎じて作る香油のようなものです。記載されている香料のうち、沈香、丁香（丁子）、青木香、麝香、浅香、甲香、零陵香、甘松の八つは薫物によく使われます。そして棗（なつめ）は、前述の「令人躰香」においても大棗が使われているのですが、私が見る限りこの二つの調合法でしか使われていません。問題は風香膏なのですが、これは固体の樹脂に油を加えたものか、もしくは固体になる前段階の流動体ではないかと考えています。

六、薫物は二千年の歴史

薫物が日本に伝わったのは中国からでしたが、その起源は古代エジプトに溯ります。クレオパトラをも魅了したキフィという薫物があり、十六種類以上の香料を用い蜜で練り合わせた、まさに日本の薫物のルーツとなるものです。キフィ



キフィの調合法が書かれているエドフ神殿の壁画

は神への聖なる捧げ物であると同時に、人々の心に安らぎをもたらすフレグランスでした。

古代エジプトで発祥した薫物文化は、アラビア半島に伝わり、現在でもアラブ諸国では乳香、没薬（もつやく）、沈香などを合わせるバフルという名の薫物の人々に愛されています。

さらに、インドに伝わった薫物は仏教と共に中国に伝わり、日本へは鑑真が、そして遣唐使が持ち帰った医薬書『千金方』によってその調合法が伝わりました。

エジプト、インドにおいて儀式、宗教に用いられていた薫物が、中国に渡って医薬に用いられ、最後に日本に渡って文化、芸術として開花することになります。

また、薫物は平安時代における宮中だ

けの香道様式のように解説されていることが多いのですが、私には信じられない誤謬です。

薫物は江戸時代においても上級武士の嗜好だったのです。例えば、徳川家康は格式を重んじた人物であり、薫物を愛し『香の覚え』という薫物の調合法を書き記したほどでした。『香の覚え』には、家康が考案した「千年菊方」という貴重な薫物の調合法が記されているのですが、そこには不老長寿を願った家康の想いが込められていました。

さらに、家康の次女である督姫も左記のように「千種（ちぐさ）」という薫物を考案しています。

督姫の方

千種

沈五両。丁子二両。甲香一両。白檀一両。薰陸一両。鬱金一分。甘松二分。麝香二分。

しかし、この記載だけでは、江戸時代の初期における徳川家だけの嗜好であると考えられる方もいらっしゃるかと思います。そこで、江戸時代中期の二人の侍医が記した書をご紹介します。

それは、公家であり中御門天皇の侍医

であった錦小路頼庸（にしきのこうじょう）りつね、一六六七（一七三五）が享保年間に著した薫物書である『香譜記』、そして、元禄五年（一六九二）に彦根藩井伊侯の侍医である苗村常伯（なむらじょうはく、一六七四（一七四八）が著し薫物の作法、調合方が記されている『女重宝記』です。

七、平安朝香道とは

薫物の歴史は世界的に見ると二千年、日本においては千年の歴史があります。

平安朝香道は、貴重な日本文化を復興し普及することを目的として、平成十七年三月二十七日に発足し、当道の流儀披露目である「燻り初め（くゆりぞめ）」を十八年二月二十五日に催しました。

薫物香道の原点であり最盛期の平安朝様式を希求していることから、平安朝香道の牌標を掲げていますが、当道は唯一の古典香道の流派であり、芸術性を重んじていることが他の流派と大きく異なることです。

このように、当道が古典香道と位置づけられるのは、薫物という流儀が最盛期の平安時代から江戸時代中期まで存続したことに依拠します。

これまで、平成十八年四月には六百年前に廃れてしまった幻の香「占唐」の復元に初めて成功し、翌月には『源氏物語』にも書かれている「承和の秘方」二種も初めて復元いたしました。また、十二月には『源氏物語』を代表する香りである「百歩香」の復元をいたしました。

これらの成果に基づき、多くの方に平安朝の薫物の素晴らしさを知っていただくため門戸を開きましたが、優雅で奥深い薫物だけでなく、掛香（かけこう）、訶梨勒（かりろく）、衣香（えこう）などの稽古も行っています。

また当道では、誰もが手軽に本格的な平安朝薫物を作ることを目標とし、古方に学び楽しむだけでなく、その思想に基づいて薫物の創作を行い、毎年秋季に開催する「薫物合わせ」だけでなく、季節ごとに「源氏合わせ」を催しご披露しています。

筆者略歴（はせがわ かげみつ）

1953年生まれ。

元神奈川大学講師。

平安朝香道宗師。

平安楽舎雅楽研究所所長。

彼は会員

NYで出会った「最後の手紙」を歌う男たち

早春に届いた1通の手紙

まだ寒い早春に、1通の分厚い手紙が届いた。普段メールですませる暮らしになって手書きの封書はめったに來ない。差出人はメーカー勤務のころ仕事のイロハを叩き込んでくれたボスからだった、何だろう、とボスの年齢を数えながら開封した。87歳になったはずだ。

ゲラ刷りのコンサートのチラシが同封されていた。

用件は「カーネギーホールで歌うことになった、その時アメリカににいるなら、來ないか」との誘いだった。

かつてのボスは世界中をエネルギッシュに飛び回る仕事人であ面倒見がよく、大学時代グリークラブで鍛えた歌は並はずれてうまかった。

アマチュア合唱団に所属し、今も演奏会に出演、NYに行くという。その若さと行動力に驚いた。

私はこの時期アメリカにいて、友人のアメリカ人夫妻を誘いニューヨークの演奏会を楽しみに参加する旨の返事をした。ボスが所属する合唱団は「六本木男声合唱団ZIG-ZAG」。この合唱団は1999年エイズ・チャリティー・コンサートのために特別編成された20数名の政治家、企業家、医師、弁護士、文化や芸術の分野で活躍する著名人による「元美少年合唱団」として発足したそうだ。

その後「六本木男声合唱団倶楽部」として再スタートし作曲家の三枝成彰さんが団長として指導している。

合唱団のメンバー、20代から

佐藤嘉信（会員）

80代までのアマチュアメンバー104名が毎週1回練習に励んでいる。

この合唱団は国内外で演奏活動している。

国内は、サントリーホール定期公演、東京カテドラル聖マリア大聖堂で三枝成彰「レクイエム」の定期公演、東京マラソンでは初回から国歌斉唱を行っている。

海外はウィーン、ベルリン、ハバナ、モナコ、パリ、ミラノ、バチカンなどで公演してきた。

「最後の手紙—The Last Message」

合唱団が世界各地の演奏会で披露している歌は「最後の手紙」。

この作品はドイツ人、ハンス・ワルター・ベアが第2次世界大戦で戦死した31か国202人の

兵士が残した手紙を集めた『人間の声』（高橋健二訳編、河出書房新社）が原作。

作曲家の三枝さんが東京芸術大学の学生時代に、この本に出会い深く心を揺さぶられ、いつか曲にしたいと思い、西洋音楽史上あまり例がないオーケストラ付きの男声合唱曲を完成させ、2010年の合唱団10周年記念に初演している。三枝さんが発意して50年、宿願を果たした作品だ。

戦争を憎み、平和を望み、祈る、全人類がその姿勢を共有しよう、との願いを曲に込めたという。

合唱曲は13曲（12か国13人の手紙）で構成されている（『最後の手紙—男声合唱版』三枝成彰作曲、全音楽譜出版社）。13人の手紙の一部を紹介すると…。

レジスタンスで捕まり処刑された、フランスの16歳の少年の「最後の手紙」は「兵士たちが僕を連れに來ます。僕の字は少し震えていて、読みにくいかも

しれません。それは鉛筆が短いせいです。死を恐れて怯えているのではありません。ささやかな蔵書はお父さんに。思い出のコレクションはお母さんに。一生懸命勉強した教科書は弟に。大切な日記は愛しいジャンヌに贈ります」。

中国兵は「服に涙が落ちる。誰も過去の日々を忘れることなく出来はしない。母に別れを告げなければならぬ時が来る」。日本兵は妻に「日曜日の朝、思うのはいつもお前のこと。お前のまっぴげにそっと触れ、静かに抱いていた。日傘をさし、青いプリントのワンピースを着たお前の夢を見た」。

アメリカ兵は「戦争は地獄だ、地獄だ」と叫び、イギリス兵は「神よ、僕たちに力を与えてください。僕たちが造ったものが世の中の役に立つものとなり、決して僕たちの支配者にならないように」と訴えている。

手紙に共通しているのはみんな若くして亡くなり、まだ見ぬわが子や、妻、そして母を想い、

戦争という不条理を訴えながら、平和を、それもささやかな日常的平和を願っていた。

戦場の悲惨な現実、兵士たちの切ない希望と絶望の声を生々しく伝えることで、残酷な戦争とそれによって愛する家族や恋人との絆が裂かれることが2度通じて、世界に平和をもたらすことを願った三枝さんは「なぜ戦争が起るのか、なぜ今も戦争は続くのか」を原始の人間の歴史ながらも紐解きながら考え抜いて作曲したという。



カーネギーホール

ニューヨーク、マンハッタンにあるカーネギーホールは鉄鋼王アンドリュー・カーネギーに

よって1891年に建てられ、こけら落としにはチャイコフスキーが自ら出演し、音楽家やエンターティナーにとってはあこがれの聖地。

カーネギーホールには有名なジョークがある。

世界的なピアニスト、ルービンシュタインがカーネギーホールの付近を歩いていたとき、有名なピアニストと知らない通行人から「すみません、カーネギーホールへはどういったらいきますか？」と尋ねられた。彼は即座に「二に練習、二に練習、三に練習です」と答えたという。

演奏当日、2800席の大ホールが日米など多くの人でうまった。

一部は国連職員の合唱団、さまざまな民族衣装をまといた、各国の歌を歌った。

二部が「最後の手紙」、歌に出てくる12か国の大使家族や職員家族や友人も参加していた。合唱団は大友直人さんが指揮

する東京フィルハーモニー交響楽団80名の演奏で、アマチュアとは思えない豪華な演奏会であった。合唱団は団員104名中、実に101名がはるばるニューヨーク公

演に参加していた。

団員は猛練習でこの日に臨み、海外演奏会費用も全て合唱団員負担で準備したそうだ。



いのちのメッセージを歌いあげる

13曲でなる13通の「最後の手紙」は、各曲の合唱の前にフレッド・カタヤマさんのナレーションがあり、舞台上のスクリーンに、それぞれの「最後の手紙」が映し出された。

フランス、日本、アメリカ、ブルガリア、ポーランド、イタリア、中国、英国、朝鮮、ロシア

ア、ドイツ、トルコ、そして日本の順に歌でつづる。

合唱は朗読のように歌詞に旋律をつけ、ときにはミュージカルのように歌う。

戦場で死を前にして書き残した手紙、家族、母親への愛をつづる手紙、処刑を前にした最後の手紙。日本人の2通の手紙は、ルソン島で戦没した35歳の兵士が妻へ宛てた手紙。もう一通は終戦後、軍事裁判にかけられフィリピンで銃殺刑となった28歳の兵士が家族に宛てた手紙。

戦争がいかに残酷で、家族や恋人との絆が引き裂かれた言葉にあふれ、「死」「罪」「悲しみ」が重厚に歌われた。

演奏は休憩時間がなく一気に行われ、1時間40分の演奏の最後は合唱団員の熱き平和への願い、12か国語で「私たちに平和を下さい」とスクリーンに表示され、曲は低いチェロの音が静かに緩やかに、亡くなった兵士たちの魂を慰めるように、流れた。

スクリーンにはさらに、第2

次世界大戦でのおびただしい犠牲者数が各国別に次々表示され、「全世界で7千万人が亡くなった」と数字が冷酷に浮かび上がった。

聴衆は最後まで熱心に耳を傾け、会場の全員が総立ちとなり、心からのスタンディングオベーションがいつまでも続いた。作曲家、三枝さんの「残酷な戦争で家族や恋人との絆が、2度と引き裂かれないことを願っています」「合唱団全員の、いのちのメッセージ」をお聴きいただきたい、これが団員の願いです」が届いた感動的な瞬間であった。

これからこの曲を 歌い続けたい

合唱団のメンバーは「音楽を通じて、戦争の悲惨さを改めて認識し、訴える意義があると思いたい」「これからこの曲を歌い続けたい」「歌い始めたときは、歌詞を覚えるだけで精いっぱい。しかし、歌うにつれ、歌詞の重みや意味、そしてメロディの意味が分かるようになり、内容の

重さを超えたところになにか希望のようなものが感じられるようになる」と話していた。

三枝さんは今後公演をしたい都市はどこか、という問いに「やっぱり北京とか、平壤、ソウルですね」と答えた。

六本木男声合唱団はかつての激戦地を訪ね慰霊の歌を捧げる活動もしていて、レイテ島（フィリピン）、ルソン島（フィリピン）、ガダルカナル島（ソロモン諸島）、ペリリュー島（パラオ）、クエゼリン（マーシャル諸島）などを訪問しており、11月にはミャンマーで「密林に吠える」戦没者慰霊の献歌を行うという。



歌う男たちの願いも 国際善隣

マンハッタンで出会った合唱団101人の歌を通じた心からの願いは多くの国の聴衆の心を

打ち、まさに国際善隣であった。昨年は日中国交正常化46年、日韓国交正常化53年、日米交流155年、日仏友好160年。たとえ小さなかけ橋、小さな活動であっても、芸術・学術・スポーツ・旅行・社会など人々の往来や交流が活発になれば国際善隣はさらに広がるだろう。あらためて国際善隣協会のスピリッツを読んでみた。

……「動乱の前世紀の歴史を教訓として、近隣諸国民との民間交流と相互理解に努め」「我が国そして世界の平和と進歩への貢献」に関心の深い方々の参加で「近隣諸国との友好親善に貢献する」……

国際善隣協会のスピリッツに共鳴した会員の多様な活動で、これからも近隣諸国の一人でも多くの人の心に届けたいものだ。



編・訳 上松玲子

土地管理法にみる大転換

先頃、全国人民代表大会に提出審議された土地管理法、都市不動産管理法の修正案草案には極めて大きな修正がある。

現行の土地管理法にある「非農業建設に使用する土地は国有地または集団所有の土地を国家が接収した土地であること」という規定が削除されたのだ。工業や商業目的でも、土地所有権を持つものが土地使用者個人や企業に直接譲渡、貸与することを認めるということだ。

現行の都市不動産管理法では都市計画区域内の集団所有の土地はまず国有としてから譲渡するという規定があるが、「法律で別に定められたものに関しては除く」という文言が加えられた。土地管理法が改正されれば、集団所有の建設用地が市場取引されることの法律的な障壁がなくなることだ。

市民の立場からみると、この改革で自己の小さな不動産が格上げされるという意味なのかどうか大きな問題となる。「中原地产」の首席分析員の張氏によれば、今回の改正の対象は工業用地、商業用地など営業目的の土地使用に関するものなので、当面住宅市場に影響はなく、主に影響を受けるのは、大都市および中規模都市の商業用地の供給であらうということだ。

『中国証券報』2018年12月23日

法律によらない拘束を廃止

改革開放の初期に生じた売春問題について、売春した者には「6か月から2年の集中的な法

律教育と道徳教育および生産労働を課し悪習を取り除く」と1991年全人代の制定した「決定」により定められた。しかし2000年に制定された「立法法」が、人身の自由を制限する強制措置や処罰は法律によってのみ行われると規定するため、收容教育制度の合法性が問われることになった。また、收容教育の最低期間が6か月と、刑事罰よりも長いことから、さらに違法性が濃厚となった。

適時に收容教育制度を廃止することは法治国家としての進歩を表す。しかし、收容教育にかわる教育制度と、売春取り締まりが重要なのは言うまでもない。『新京報』2018年12月26日

視聴率操作は価値観の汚染

2018年9月監督、脚本家の郭靖宇氏は大学の講義で業界内に視聴率を操作する黒幕が存在することを実名で中国国家広播電視総局に通報したと公表し、大騒ぎになった。先頃同局は、テレビ番組視聴総合評価ビッグ

データシステムが完成、試験運用の段階に入り、問題はまもなく根本的に解決されるだろうと発表した。

これは業界内だけの問題ではない。誤ったデータに基づいて、時代や人々の価値観に反する作品が次々と作り出され放映されることになるのだ。

現在どのテレビドラマにも出てくる「小鮮肉」（韓国スターのような顔もスタイルも美しい若い男性タレント〈訳者註〉）だが、実際は抵抗を感じる人も少なくない。国家のスローガンを代弁する「主旋律」作品は、逆に大ヒット作となり、文化思想的にも、経済的にも大成功を収める。製作者たちが悪いのではない。誤ったデータから勘違いして、人々が求めているものを作ってしまうのだ。

視聴率の操作は、価値観の汚染だ。それはテレビや映画業界だけでなく、社会全体を蝕み、汚染する。関係部門は解決への決意だけでなく、技術的な裏づけも持ったようである。新シス

テムが設立つことを切に望む。

『北京青年報』2018年12月28日

象牙の闇市場に潜入

わが国は2018年1月1日より象牙および象牙製品の加工と販売を全面的に停止して1年、多くの違反行為が摘発された。

北京の文具骨董市場にはマンモスの牙と偽り象牙を加工して顔見知り販売している店がある。元々象牙を扱っていた業者が在庫処理目的で表向きは象牙の代替品のマンモスの牙を取り扱い、裏で禁制品を取引しているのだ。マンモスの牙と象牙の見分け方は斑模様目の角度だが、中心部になると色も模様も見分けにくい。

北京郊外に象牙の保管場所や加工工房があることは業界の間では誰もが知る秘密。その工房の責任者に接触した。彼は4年前ドイツで象牙の加工に関わるようになり、帰国後工房を開いて象牙やアルマジロ、虎など野生動物の製品から彫刻品を加工、販売している。野生動物製

品の取り締まりが厳しくなったので店に材料はおかず、必要な時仕入れる。象牙製品は今でも売れ筋の商品で「市場は大きく、危険だが儲かる」という彼は、エンジニアという安定した前職を捨てて自分の趣味と愛好家のための仕事をしているのだそうだ。

彼が福建省の象牙卸業者から仕入れる価格は1㇫10元程度だが、彫刻のないアクセサリに加工しただけで、27・3㇫のものが9百元に跳ね上がる。

販売禁止後彼は象牙を1本ごと手渡しで受け取る方法から、小さいピースを宅配便で送ってもらう方法に変えた。象牙の密売ルートが多くが国境地帯で象牙を仕入れ、切り分けて各地に発送するというもの。相手の顔は知らず、連絡はSNSだ。

2か月かけて彼から象牙卸業者のアカウントを教えてもらったが、その内容は茶葉や翡翠の取引ばかりだ。1年後ようやくもう1つのアカウントを教えてもらった。そこでは象牙のほかサイの角などの絶滅危惧種の

製品も扱っている。決済用にはさらに別のアカウントを使っているらしい。実店舗を持つ業者とは取引しない。製品は指輪やブローチ、箸、筆立てなど小型のものが中心だ。ここまで慎重にしても続けるのは利益が大きいからだ。1本30万元以下で仕入れた3メートルの象牙を小さく分けて売れば、総額200万元以上になる。発送には毎回同じ宅配業者の同じ担当者を使う。心づけも忘れない。

そしてこの卸業者も広西チワン族自治区の国境地帯からハンドキャリアで持ち込むという密輸業者の顔を知らない。

『新京報』2019年1月2日

作られた名所旧跡

先頃、江蘇省蘇州市姑蘇区の法執行部門は定園旅遊服務公司の営業許可証を無効とした。虚偽の宣伝による観光スポットの営業許可取消はわが国初めてだ。

定園は有名な虎丘の南数百メートル、古茶花村にある。何度も主人がかわり、修復が繰り返され、今は遺跡の上に作られた現代庭園だといえる。劉伯温の私邸というのが裏付けはない。それを「蘇州古典庭園の粹」などとうたい、虎丘の一部のように宣伝したのである。記者は観光客にまぎれ定園ツアーに参加して、唐伯虎や呉王夫差の逸話や、年代が合わない説明など、奇妙なガイドを聞かせられた。

このようなニセモノ名所旧跡は全国に多く存在する。河北省の冀宝斎博物館は国家3A級の観光地と銘打ちながら展示物はほとんど偽物だった。西安には秦陵地宮や鴻門宴遺跡などのニセモノ遺跡があり、二重瞼で赤い唇の兵馬俑は別の意味で現地の見ものになっている。

多くの地方が財政を潤すためこうした行為に片目をつぶっていることがニセモノ横行の要因なのだ。視野の狭い地方保護の観点を捨て、観光業者に対して厳しい態度で臨むことの方が、真の意味で地元の観光業を保護することになるのではないか。

『錢江晚報』2019年1月2日

コラム

《腰折れ文》 十九、

渡邊澄子（会員）

三月号だが書いているのは一
月で感覚も内容も一月。前号の
執筆後、新聞三紙（朝日・東
京・琉球新報）から切り抜いた
私にとって詳述したい重要記事
が山をなす。取捨選択に迷う。

何と言っても事件性最大は沖縄
問題。県民の要望による辺野古
基地賛否の県民投票に全県民参
加を求める県民の声を無視して
投票に不参加を表明している五
市は「自民党系の議員や首長」
という。投票したいのにできな
い市民は宜野湾市で73割（その
一人、一橋大学院生が市役所
前でドクターストップがかかる
までハンスト。その間、県内外
から応援・激励続々）、市民と
して玉城知事も投票できない沖
縄市は78割という。市民の声を
圧殺した不参加は民主主義に反
し、法学者による投票権を奪う

ことの違憲性が述べられてもい
る。投票権剥奪に賠償請求訴訟
やリコールによつて首長に迫る
運動も進められている。もはや
沖縄一県、日本一国の問題を超
えて世界の耳目を集める問題に
なっている。取りあえず工事中
止をトランプ大統領に求める嘆
願署名が国内外の賛同者によつ
て規定数の倍を超える、私の一
筆も含む二十万超筆が寄せら
れ、ホワイトハウス前では連日
直訴集会が開かれている。市民
の参加への強い意志を踏みに
じつての不参加強行を、「自衛
隊を正規軍に変貌させたい政権
は、沖縄を一段と軍事の島にし
たい。辺野古はその野望の拠
点」（東京新聞）なので全県一
斉ではなく不参加市による「穴
あき」にして、効果を薄めなけ
ればならないのだろうの分析は

真つ当だろう。

市民の権利を蹂躪してまで政
権に忠義だてする価値ありと五
首長は本気に考えているのだろ
うか。基地の完成時期、工費が
当初の予測をはるかに超えるば
かりか、世界的宝の自然環境を
再生不可能にしてなお、普天間
の代替基地としての機能不可能
が明白になっているにもかかわ
らずの強行は、米国の要望隷従
による基地増設で、普天間がな
くなるなんてあり得ないと私に
は思われる。辺野古基地建設は
目に余る憲法・法令違反の連続
だが、安倍首相の珊瑚は移した
とのとんでもないフェイク発言
は菅氏の常用語「問題ない」で
済ませる問題ではない。フェイ
クと言えば、近年の蔓延は無視
できない。沖縄知事選挙時の酷
さは言語に絶する。琉球新報社
は「ファクトチェック取材班」
を設けて毎号検証の記事を掲載
している。フェイクもまことし
やかに大量発信されると真実感
を植え付けられる効果がある
という。卑劣だ。

東京新聞の「税を追う」は極
めて有益な企画で、納税者とし
て我慢ならない真実を知らされ
る。辺野古埋め立て土砂その他
にも言えるが、米軍絡みと見ら
れるせいぜい三〇五億円の無人
島の馬毛島を百六十億円で買う
という。税金ですすよ。安倍首
相の妻同伴の外遊は頻繁だ。外
交上必要なだろうが国益成果
がよくわからない。森友問題は
未解決なのに平然と手を振り手
をつないでタラップを登る映像
に、任期中に大名旅行で世界旅
行をするのかと皮肉りたくな
る。昭恵氏にかけた税金の額を
知りたい。

その他問題は山ほど。世界最
悪の借金国なのに専守防衛はみ
出しの官邸主導の「空母化」を
含む膨大な防衛費、許しがたい
厚生労働省問題、麻生氏始めの
ジェンダー差別、呆然とした正
則学園理事長への早朝挨拶
等々、この国はどうなつてしま
うんだろう。不安が募る。

陶々俳壇

ようよう

兼題「雪」「標」 席題「新」

☆ 初明り生駒の峯の神申し

○ 結氷の標とすべく小石投ぐ（由紀子）

☆ 指先のふやけるまでの柚子湯かな

初電話熊本地震震度六

○ 年新た三・三億まぐろ糶

飾りみな見事おさまりお正月

年女日中友好道標

☆ 掃くやうに漂ふやうに冬の雲（善一）

☆ 冬夕焼影絵となりし富士の嶺

○ 吹雪突き黒きマントの人となる

竹竿や吹雪の中の道しるべ（仁哉）

鶯の来鳴き梅が枝飛び交ひぬ（紅杓）

風止みて雪嶺峨峨と聳え立つ

新雪を踏めば応へる朝の道（和水） 馬場由紀子

初晴れや斜め上向く道標

☆ 最高点 ○ 由紀子選 （一）各特選

選後評

馬場由紀子

河豚刺しや皿の模様の透けて見え 紅杓

作者の河豚刺し初体験は終戦前の下関で、当時日本領である大陸に帰る前お父様と食されたという。句の仕立てとしては既視感を感じるが、その歴史をふまえて鑑賞すると皿の模様が美しく寂しい。

初芝居撒き手拭の幸を受く 善一

国立劇場の初芝居。この時は花道から手拭が撒かれる。作者は去年も行かれ手拭の幸を受けられた由、そして今年もこの一年どんな幸が作者待っているとか、楽しみだ。

愛孫の嫁ぎし那須は雪ならむ 仁哉

孫の句は甘くて駄目だという人もいるが、何故かこの句には甘さを感じない。勿論孫を思う気持ちはあるのだが、それよりも那須の雪が際立ち、さりと読める。句と作者の一体感を感じる。

うす曇り庭につばきの落ちる音 若杉

薄曇りの色を失った世界に真つ赤なつばきの存在が鮮烈だ。そして、つばきの落ちる音が聞こえるほどの閑けさ、ここに存在するものは、つばき一花のみ、その他は一切の空。格調高く仕上がっている。

雪国に老いたる友の長電話 京

雪に閉ざされた地に住む友からの電話。老齡ではやすやすと外出もままならない。そこで友達への電話で気を紛らせていらつしやるのだらう。作者も友情厚く友の長電話に付き合っている。

水底の深き眠りの蓮根掘る 和水

冷たい水の底深くに眠るもの。上五中七までを読むと、何やら不穏な感じを受ける。一体何が現れるのだらうか。その正体は下五にて判明。蓮根である。農家の方は手間をかけて蓮根を自覚させるのである。

人の寿命

佐藤若杉

人間90を超えると勢い自分の死に方について考えさせられる。その意味で正岡子規の死に方について『病床六尺』は大いに参考になると思い読んでみた。子規は次のように言っておる。「余は禅宗でいふ悟りとは、如何なる場合でも平気で死ぬる事と思つていた。がこれは間違ひで、悟りとは如何なる場合でも平気で生きるといふ事であつた」（要約）と。

最新の子規は結核が全身にまわり、肺は末期症状であつた。脊椎カリエス、発熱、浮腫、化膿で寝返りもできない。腐乱したボロボロの状態で痛い時は泣き叫び、苦しい時はうなり狂う。堪えるということは先ずなかつたという。いかなる場合も平気で生きんとした悟りの実践であつた。

こうして、同好の文人は伊藤左千夫、長塚節、高浜虚子、河東碧梧桐など「写実主義」という文芸改革をなしとげた錚々たる人材が輩出したのである。

人生の最晩年は苦しまなくても大往生で、知らぬ間にあの世にゆくのが小生の願いであり、そのためにも悔いなく懸命に一日一日を生きたことと小生は思っている。

中 協 会 通 信

◆平成31年「新年互礼会」を開催

1月10日正午より52名の出席者があり、新橋の「新橋亭」で盛大に開催された。矢野一彌会長の新年の挨拶に続き、恒例の「陶謡会」のメンバー5名が今年の御題小謡「光」を謡い、最高年齢（満93歳）を迎えられた神保達氏の乾杯の音頭で新年会は和やかに始まった。最高顧問の三原朝彦衆議院議員の秘書上野忠彦氏の挨拶、杉山秀子氏の挨拶、さくら共同法律事務所の映画監督・弁護士の河合弘之氏の挨拶、「星火方正」（せいかほうまさ）の最新号の紹介を兼ねた大類善啓氏の挨拶、さらに藤沼哲朗氏のカンツォーネ、秋元勇一郎氏の津軽民謡が飛び出し、例年になく大いに盛り上がりを見せた。和氣満々のうちに竹前栄男氏の中締め「万歳三唱」で元気を分かち合い、岡部滋常務理事の閉会の辞でつつがなく新年互礼会を締めくくった。

◆「2019年日中友好新年会」に参加

1月22日一ツ橋の如水会館で「2019年日中友好新年会」が開かれ、矢野一彌会長と藤沼常務理事が参加した。（公社）日本中国友好協会の丹羽宇一郎会長が初めに挨拶をされ、「昨年度は日中平和友好条約

締結40周年を記念し、李克強首相の来日、安倍晋三首相の訪中が実現し、日中新時代に向けた『競争か協調』が明確に示された。今年はこれをさらに一歩進めてより密接な関係を築き上げていきたい。できることは何でもしたい。そのためには、若者同士の一層の交流を是非推進したい」と力強く述べられた。これを受けて、来賓の程永華駐日大使が、「今年度は中華人民共和国建国70周年を迎え、日中交流をさらに深化させたい」との挨拶をされ、日中交流強化に賭ける意気込みが感じられた。民間ベースでの親善関係を推進する当協会としても、国際交流をさらに深めるべく活動していきたい。（事務局局長 藤沼弘一）

会員だより

◎新会員

＜正会員＞

松本千俊氏

同好会だより

＜謡曲会＞

3月26日例会 実施予定曲目

曲目	役	割	地頭
東北	シテ土屋	ワキ澤村	鶴川
嵐山	シテ鶴川	ワキ神保 ツレ澤村	後ツレ宮下 村瀬
忠度	シテ宮下	ワキ土屋	神保

みんなの写真館

北京ビジネス街の朝（表紙）

「古都北京」という言葉があった。40年前の駐在時代には、その面影が各所に残っていた。今、「改革開放」の成果として、古都は超高層ビルと高層集合住宅と、そして車の奔流の下に埋まった。北京で「絵」を撮ることは難しくなった。昨冬の苦心の作がこの1枚。絵になっているかどうか。（田畑光永）

台北101「危ない浮遊感」サイコー！（表4上）

2015年6月寄港した基隆からバスで有名な台北101へ行った。89階の観景台の写真スポット！「これはいい写真が」と直感しながらも「気を付けよう捕まるかも知れない」と周囲を気にしながらスマホを切った。ネットでは同じような写真がいくつも！でもこの写真がサイコーにク

ラクラする、しかも健全である。ちなみに、今では自分でもどの方向から撮ったのかわからない。（森淳）

お地藏様が並んでいる（表4下）

「瑠璃山薬王院」（新宿区）は真言宗豊山派で、鎌倉時代に願行上人による開山と伝わります。奈良長谷寺の末寺で、長谷寺から移植された1000株の牡丹が根付き、40種類約1000株の牡丹が咲き誇る「牡丹寺」とも呼ばれています。でも、牡丹の花の写真はまたの機会に。

今回は、並んでいるお地藏様に、お顔がとても美しい方がおられ、ひそかにファン（？）がいて、そのお地藏様にだけに（赤い頭巾の上に）暖かそうな毛糸の帽子を差し上げているらしく…。そのことにひかれて、ついシャッターを切ったのですが…。（原田克子）

2019年3月の行事予定

- 5日(火) 14:00 謡曲会(松木先生稽古日)
- 6日(水) 13:00 俳句会
兼題「堇、十」及び当季雑詠
- 7日(木) 14:00 ○公開フォーラム
「サハリン残留邦人支援」
斎藤弘美氏(NPO法人日本サハリン協会会長、元アナウンサー)
- 8日(金) 11:00 一石会囲碁例会
- 14日(木) 14:00 ○公開フォーラム
「米国によるイラン核合意離脱から中東の現在を読み解く」
近藤百世氏((公財)中東調査会研究員)
- 19日(火) 14:00 謡曲会(松木先生稽古日)
- 26日(火) 13:00 謡曲会例会
- 27日(水) 14:00 公開「善隣古海塾」
「戦争の時代、そして満州国を振り返る」第7回
塾長:古海建一氏(前当会会長、当会顧問)
- 28日(木) 18:30 ◎公開アジア研究懇話会
「北方領土、2島返還なるか」
中村逸郎氏(筑波大学教授)
- 29日(金) 16:00 公開「善隣中国塾」
テキスト:『中国の夢—電腦社会主義の可能性』第7回
「第6章 一帯一路が導く全方位外交」
塾長:矢吹晋氏(横浜市立大学名誉教授、当会学術顧問)

3月の会議予定

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 4日(月) 14:00 環境委員会 | 13日(水) 14:00 財政委員会 |
| 7日(木) 16:00 講演委員会 | 27日(水) 14:00 東北委員会 |
| 7日(木) 16:00 広報委員会 | 28日(木) 14:00 理事会(第13回) |
| 12日(火) 14:00 国際交流委員会 | |

※会員外一般聴講者の参加費は、◎印:1000円、○印:500円、無印:無料です。

※下線は通常日程に変更あり

みんなの 写真館



INTERNATIONAL GOOD NEIGHBORHOOD ASSOCIATION (IGNA)
<http://www.kokusaizenrin.com>

ISSN 0386-1034
二〇一九年（平成三十二年）三月一日・毎月一日発行

「善隣」第五〇一号（通巻七六八）

発行所

〒一〇五・〇〇〇・四 東京都港区新橋一・五・五

一般社団法人 国際善隣協会

電話 〇三・三五七・三三〇五（番代表）